

官

報

號 外

明治三十三年一月十六日 火曜日

印 刷 局

○第十四回 衆議院議事速記録第十一號

明治三十三年一月十五日(月曜日)午後一時十三分開議

議事日程 第十號 明治三十三年一月十五日

午後一時開議

第一 間接國稅犯則者處分法改正法律案(政府提出)

第二 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉

第三 獄疫豫防法中改正法律案(政府提出)

第四 官吏恩給法中改正法律案(政府提出)

第五 官吏遺族扶助法中改正法律案(政府提出)

第六 正法律案(政府提出)

第七 重要輸出品同業組合法中改正法律案(恒松隆慶外)

第八 質屋取締法中改正法律案(利光鶴松外)

第九 辯護士法中改正法律案(安藤龜太郎)

第十 衆議院議員選舉法改正法律案(根本正)

第十一 鐵道敷設法中改正法律案(鳩山和夫外)

第十二 治水ニ關スル建議案(佐々木正義外)

第十三 巴里萬國博覽會協賛費增加ノ建議案(恒松隆慶外)

第十四 四國高等學校設置建議案(林翁外十)

○議長(片岡健吉君) 是ヨリ諸般ノ報告ヲ致シマス

(書記朗讀)

貴族院ヨリ送付セラレタル議案左ノ如シ

間接國稅犯則者處分法改正法律案

貴族院ハ加工ノ爲輸入スル物品關稅免除ニ關スル法律案府縣監獄費及府縣

監獄建築修繕費ノ國庫支辨ニ關スル法律案及水害地方地租特別處分法案ヲ

可決シタル旨同院ヨリ通牒アリ

貴族院明治三十二年十二月二十一日ヨリ同三十三年一月十五日マテ休會ノ

旨同院ヨリ通牒アリ

議員ヨリ提出セラレタル議案左ノ如シ

鐵道敷設法中改正法律案

提出者 嫦山 和夫君 佐々友房君 重野謙次郎君

恆松 隆慶君

衆議院議員選舉法改正法律案
提出者 根本 正君

鐵道國有ニ關スル建議案
提出者 石黒涵一郎君

大三輪長兵衛君

前島丈之助君

小田賀一君

千田軍之助君

花井卓藏君ヨリ刑法改正ニ關スル件花井卓藏君平岡萬次郎君ヨリ行政裁判

所評定官ノ定員並兼任ニ關スル件ニ附キ質問書ヲ提出セラレタリ

新潟縣第六選舉區選出議員牧口義方君ハ明治三十二年十二月二十日、福岡

縣第七選舉區選出議員山本貴三郎君ハ同十二月二十二日孰モ死亡ニ附キ本

院ハ左ノ弔詞ヲ贈レリ

衆議院ハ議員山本貴三郎君(牧口義方君)ノ長逝ヲ追悼シ恭シク弔詞ヲ呈

ス

議員牧口義方君及山本貴三郎君死亡ニ附キ議長ハ孰モ其補闕選舉ヲ内務大

臣ニ請求セリ

特別委員長及理事左ノ適當選セラレタリ

久米民之助君ノ提出シタル動議ニ關スル件

久米民之助君ノ提出シタル動議ニ關スル件

衆議院議員選舉法改正法律案
委員長 伊藤徳三君

委員長 山本幸彦君

理事 林喬君

理事 利光鶴松君

土地收用法案
委員長 伊藤徳三君

委員長 山本幸彦君

理事 林喬君

理事 利光鶴松君

民法施行法中改正法律案
委員長 武市彰一君

委員長 星亨君

理事 林喬君

理事 利光鶴松君

德育制度調査會設置ノ建議案
委員長 安部井磐根君

蠶絲業調查所設置ニ關スル建議案
委員長 降旗元太郎君

外國商工業練習並觀察ニ關スル建議案
委員長 井上角五郎君

理事 串本康三君

理事 脇坂行三君

理事 伊藤直純君

高等學校設置ニ關スル建議案外一件
委員長 久米民之助君

理事 安藤龜太郎君

(左ノ質問書ハ朗讀ヲ經サルモ參照ノタメ茲ニ掲載ス)

刑法改正ニ關スル質問主意書
右成規ニ依リ提出候也

明治三十三年一月十五日

提出者 花井 卓藏

賛成者 山田 喜之助
外三十名

刑法改正ニ關スル質問主意書

一政府ハ刑法全部ヲ改正シ本期議會ニ提出スルノ計劃アリト云フ果シテ信

歟若シ信ナリトセハ如何ナル必要ニ基キタル乎其沿革竝ニ理由ハ如何

一又之ヲ一部ニ止メシテ全部ニ及ボシ依テ以テ現行刑法ヲ根本的ヨリ改

正セントスルハ刑法歴史ノ一大革命ニシテ又立法上ノ異例ニ屬ス而シテ

其之ヲ敢行セントスルノ理由ハ如何

一一旦其改正案ヲ法典調査會ノ議ニ付シタルニ拘ラス審議討究ノ機會ヲ與

ヘス總則編ノ議事未タ其半ニ達セサルニ早ク既ニ之ヲ取回シタルノ理由

ハ如何

一刑事訴訟法全部ノ改正ハ第十三回帝國議會ニ於テ政府者ノ公言セシ所ナ

リ然ルニ今日ニ至ルマテ曾テ其提出ノ運ヲ爲サス却テ刑法ノ改正ヲ先キ

ニセントスルノ理由ハ如何

右及質問候也

行政裁判所評定官ノ定員並兼任ニ關スル質問主意書

右成規ニ依リ提出候也

明治三十三年一月十五日

提出者 花井 卓藏 平岡 萬次郎

賛成者 山田 喜之助

外三十二名

行政裁判所評定官並兼任ニ關スル質問主意書

一行政裁判法(明治二十三年法律第四十八號)第二條ハ行政裁判所評定官ノ

定員ヲ勅令ニ委任シ明治二十三年勅令第百十一號ハ該委任ニ基キ其第一

條ヲ以テ定員ヲ一人トセリ然ルニ行政裁判所ニハ現在十六人ノ評定官

アリテ定員ヲ超ユルコト五人ニ上レリ政府ハ之ヲ以テ法律命令ニ背カス

トスル乎

一行政裁判所評定官兼任ノ制ハ行政裁判法ノ認ムル所ナルヲ以テ定員十一人ノ規定ハ専任兼任相通シテ適用セラルヘキモノト解釋セサルヘカラズ

從テ明治三十二年勅令第三百五十五號ヲ以テ定員令ヲ改メ専任十一人ト

スルモ之カ爲メニ定員外ノ兼任ニ制限ナシトシタルニ非ス然ルニ該勅令

ノ發布ト共ニ行政裁判所ニ定員外ナル五人ノ兼任評定官ヲ見ルニ至レリ

政府ハ之ヲ以テ法律命令ニ背カストスル乎

一行政官ヲシテ評定官ヲ兼任セシムルハ法律ノ禁スル所ニ非スト雖モ裁判

權ノ獨立ヲ保ツ上ニ於テ事實上成ルヘク之ヲ避タルヲ相當トス(行政裁判

判法第十條第三號第三十二條第三十五條參照況ンヤ現ニ定員タル十一人ハ悉ク專任評定官ヲ以テ充々在ルニ於テオヤ然ルニ政府カ訴訟當事者タリ若クハ其代理人タルヘキ行政官ヲ以テ評定官ヲ兼任セシメ故ラニ裁判權ノ獨立ヲ傷ケ併セテ其信用ヲ失墜セシメントスル理由ハ如何

一行政裁判所ノ裁判事務ハ決シテ繁多ナルニ非ス又決シテ困難ナルニ非ス從テ定員一人ヲ以テ處理十分ナリトス然ルニ政府カ何等ノ憑據ナク故ラニ之ヲ増員シタル理由ハ如何

右及質問候也

○議長(片岡健吉君) 長崎縣第一區ヨリ新ニ選出セラレマシタル松尾巳代治君ヲ諸君ニ御紹介致シマス

(松尾巳代治君起立ス)

(拍手起ル)

○議長(片岡健吉君) チヨット請暇ノ件ニ附イテ諸君ニ御詰り致シマスガ、伊達文三君ハ病氣ニ附キ、本日ヨリ二週間ノ請暇ヲ申出ラレマシタ、御異議ガナケレバ許スコトニ致シマス

(「異議ナシ異議ナシ」ト呼フ者多シ)

○議長(片岡健吉君) 伊達文三君ハ明治三十二年勅令第三百七十七號ノ審查委員及委員長ニアリマスガ、是モ辭任ヲ申出ラレマシタガ、許シマシテ御異議ハアリマスマイカ

(「異議ナシ異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○議長(片岡健吉君) 御異議ガナケレバ許スコトニ致シマス、此委員ハ議長指名ニナシタル委員ニアリマスカラ、御異議ガナケレバ議長ハ新井章吾君ヲ委員ニ指名致シタトイ思ヒマス

(「異議ナシ異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○議長(片岡健吉君) 御異議ガナケレバ許スコトニ致シマス、此委員ハ議長指名ニナシタル委員ニアリマスカラ、御異議ガナケレバ議長ハ新井章吾君ヲ委員ニ指名致シタトイ思ヒマス

(「異議ナシ異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○花井卓藏君(百五十七番) 議長、百五十七番

○議長(片岡健吉君) マダ會議ヲ開キマセヌカラ、會議ヲ開イタ後ニ……是ヨリ議會ヲ開キマス

(花井卓藏君演壇ニ登ル)

○花井卓藏君(百五十七番) 諸君、私ハ行政裁判所評定官ノ定員並ニ兼任ニ

スルモ之カ爲メニ定員外ノ兼任ニ制限ナシトシタルニ非ス然ルニ該勅令說致ス考デゴザイマス、質問ノ箇條ハ總テ四箇條ゴザイマスガ、一括シテ極

テ簡短ニ説明ラスル事柄ガ出來ルノデゴザイマス、帝國議會ハ行政ノ監督ヲ

爲スノ權能ヲ有シテ居ルノデアル、併ナガラ行政上ノ非違ヲ匡正スルノ權

能ハ有シテ居ナイノデアリマス、此行政上ノ非違ヲ匡正シテ、而シテ由テ害

セラレタル私人ノ権利ヲ回復シ、竝ニ之ヲ執行スルノ権利ハ、帝國議會ハ遺憾ナガラ有シテ居ナイ人デゴザイマス、而シテ此權能竝ニ執行ノ權力ヲ有スルモノハ實ニ行政裁判所アルノアル、ソレ故ニ立憲法治國ニ於キマシテ、此議院ノ制度ヲ設ケテ行政ノ監督ヲ爲スト云フコトノ上ニ、尙ホ且ツ行政裁判所ヲ設ケテ自ラ其非違ヲ匡正シ、竝ニ之ニ依リテ害セラレタル一私人ノ権利ヲ回復セシメ、而シテ之ヲ執行スルノ制度ガ設ケラレマスル、即チ議院ノ制度竝ニ裁判所ノ制度ト相俟テ始テ此行政上ノ監督ヲ完カラシムルコトガ出來ルノデゴザイマス、即チ此行政裁判所ノ權能ヲ特ニ認メテ置キマシテ、而シテ地方裁判所ト區別シテ特別裁判所ノ一ツニ數ヘテ、而シテ私人ノ権利ノ回復ト云フコトニ注意致シテ居ルト云フコトハ、法政國ノ特質ズ、必ズナルベカラザル筋合ノモノデゴザイマス、併ナガラ此行政裁判所ト云フモノノ制度ニ附イテハ、深ク且ツ大イニ注意ヲセネバナラヌベキ問題ガアルデアラウト思フノデゴザイマス、裁判制度ノ極テ發達致シテ居リマセヌ國デゴザイマシテハ、此裁判ト云フモノガ適正ニ行ハル、ヤ否ヤト云フコトニ附キマシテハ、事實論トシテハ、吾々ガ常ニ疑ツテ居ル所ノモノデゴザイマス、殊ニ況ヤ行政裁判所ハ單純ノ司法裁判所ト違ヒマシテ、一個ノ平民ガ時ノ官廳ヲ相手取シテ、サウシテ自ラ害セラレタリトスル所ノ權利ノ回復ヲ求メル意デゴザイマスガ故ニ、此官尊民卑ノ盛ナル此風ノ浸染シテ、俗ヲ爲シテ居ル今日ノ如キ政府ニ於キマシテハ、此裁判ガ適切ニ行レテ居ルヤ否ヤト云フ事柄ハ、殆ド疑問ノナイ位ノ狀態ニ相成ツテ居ルノデゴザイマス、行政裁判所ハノ裁判所ニ相違ゴザイマセヌケレドモ、或ル意味ニ於キマシテハ略々帝國議會ノ權能ト、同ジキ關係ヲ持テ居ル點ガアルノアル、普通ノ裁判所ニ於キマシテハ、私人ノ間ニ爭レテ居リマス所ノ權利義務ノ關係ト云フモノヲ判定スレバ、ソレデ足リルノアル、併ナガラ行政裁判所ハ國家ガ私人ノ權利ヲ害シタル場合ニ於テ、之ヲ匡正スルト云フ點ニ於キマシテハ、即チ權利ノ伸張ヲ圖ルト云フ、即チ私人ノ權利ヲ保護スルト云フ上ニ於テ、普通裁判所ト異ナル所ヲ見ナイヤウニ見ニルノアル、併ナガラ此違法處分ガ屢々サレルト云フ——裁判所ガ屢々違法處分ヲ裁判スルト云フ事柄ハ、取りモ直サズ此行政機關ト云フモノガ、如何ニ運轉セラレテ居ルノデアラウカ、行政法ト云フ法律ハ行政官ト云フモノガ如何ニ是ヲ用ヒテ居ルアルカ、之ヲ活用シテ居ルノアルカ、或ハ寧口是ヲ殺用シテ居ルノアルカト云フガ如キ、行政上ノ實際ト云フモノ、運用ヲ爲シツ、アルカト云フ事柄ヲ監視スル所ノ機關デゴザイマス、尋常一樣ノ裁判所ト同等ニ見ル事柄ハ出來ナイノアル、ソレデゴザイマスカラシテ、行政裁判所ハ公法上ノ裁判所アル、私法上ノ裁判所ト同ジク私人ノ權利關係ノ調和が出來レバ、ソレデ足リルト云フガ如キ些々タルモノデ

ハナイノデゴザイマス、即チ或ル意味ニ於キマシテハ、憲法上優等ノ裁判所デアル、或ル意味ニ於テハ政治上ノ意味ガ含レテ居ルノアル、斯ノ如キ重大ナル裁判所アル、斯ノ如キ重大ナ裁判所デゴザイマスガ故ニ、凡ソ裁判ト稱スル動作ノ性質ニ於キマシテハ、普通ノ裁判所モ敢テ異ナル所ハゴザイマセヌケレドモ、其關係ノ及ブ所ノ大ナルコトハ實ニ私ガ事新シク申上ケルニ附イテ、深ク且ツ大イニ注意ヲセネバナラヌベキ問題ガアルデアラウト思フノデゴザイマス、即チ一私人間ノ權利關係ヲ定スルニ止ラズシテ、國家行政ノ利害得失ヲ審査スル所ノ重要ナル機關デアルノデアル、即チ帝國議會ト行政裁判所ト云フモノハ、行政監督ノ上ニ於テ兩々離ルベカラザル關係ヲ有シテ居ルノアル、帝國議會ニシテ行政ヲ監督マデモナイコトデアラウト思フノデゴザイマス、即チ一私人間ノ權利關係ヲ相手取シテモ此行政裁判所ト云フモノハ、獨立セシムルト云フノ法規ト云フモノガ嚴トシテ掲グラレテ居ルノアル、而シテ其裁判官ニ對シマシテハ、矢張候タネバナラヌノデゴザイマス、ソレデゴザイマスカラシテ、帝國憲法ヲ見マシテモ此行政裁判所ト云フモノハ、獨立セシムルト云フノ法規ト云フモノガ需要ハ見ナイノアル、併ナガラ議會ハ監督スルノ權能ハ持ツテ居リマスケレドモガ、匡正シ竝ニ實行スルノ權能ナキガ故ニ、行政裁判所ノ設備ヲシ竝ニ其非違ヲ匡正シテ且ツ之ヲ實行スルノ權能ガゴザイマスレバ、裁判所ノ必要ハ見ナイノアル、併ナガラ議會ハ監督スルノ權能ハ持ツテ居リマスケレドモガ、匡正シ竝ニ實行スルノ權能ナキガ故ニ、行政裁判所ノ設備ヲシ竝ニ其非違ヲ匡正シテ且ツ之ヲ實行スルノ權能ガゴザイマスカラシテ、帝國憲法上ニ於キマシテモ、行政裁判法ノ上ニ於キマシテモ、獨立ノ保障ヲ與ヘテ單純ナ行政官衙ト獨立分離セシムテアルノアル、行政官ノ鼻息ヲ窺フト云フヤウナ必要ハナイ役所デアル、又行政上ノ都合ヲ見計ッテ時ノ宜シキニ適從スルト云フヤウナ、極都合ノ好イト云フ裁判ノ制度ヲ採ルノ必要ハ見ナイ立シタル所ノ裁判官ナノデゴザイマス、斯ノ如クニシテ帝國議會ト兩々相俟ッテ、行政監督ノ道ト云フモノガ全キヲ得ルノデゴザイマス、ソレデゴザイマスカラシテ、其裁判官ト云フモノヲ任命スル上ニ於キマシテモ、選敍ヲ慎マナケレバナラヌト云フコトハ明ナコトデアル、此定員ト云フモノヲ漫ニ増減變更スルコトガ出來ヌト云フコトモ明ナ話デゴザリマス、然ルニ此定員ニ關スル現在ノ行政裁判所ノ狀態ヲ見マスルト云フト、殆ド行政法規ト云フモノヲ無視シ、躊躇シ、殆ド行政裁判所ト云フモノハ名アツテ實ナキガ如キノ、今日ノ狀態ヲ呈シテ居ル事柄ハ誠ニ遺憾ニ堪ヘヌノデゴザイマス、諸君、此行政裁判法ト云フモノハ明治二十三年ニ始テ制定セラレタノデゴザイマス、行政裁判所モ亦同年ヨリ設置セラレタノデアル、而シテ此行政裁判所ト云フモノガ始テ出來マスル當時、即チ行政裁判ニ關スル法律ノ出來マスアルト云フ事柄デアル、明治二十三年ノ法律第四十八號行政裁判法第二條ニ於テ此定員ノコトヲ定メテ居ルノデアリマス、而シテ此裁判法ノ第二條ニ於テ定員ノ員數ト云フモノヲ命令ノ委任ヲシタノデアル、此法律ノ委任ニデアルト云フ事柄デアル、此法律ノ委任ニ定員ハ十一人基キタル命令、即チ明治二十三年勅令第百十一號ト云フモノニ依リマシテ、十一人ト云フ數ガ定ツテ居ルノアル、此十一人ト云フ數ハ勅令デ出來テ居

リマスケレドモ、元來此勅令ト云フモノハ法律ノ委任ニ基キタル勅令デゴザイマスカラシテ、取リモ直サズ法律ニ依シテ、此定員ト云フモノガ十一人ト定メラレタモノト見ネバナラヌノデゴザイマス、然ルニ現在ノ行政裁判所ニハ幾人ノ評定官ガアルカ、現在ノ評定官ハ十六人アルノデアル、即チ定員ヲ超ユルコト五人ノ上ニ登シテ居ルノデゴザイマス、普通ノ行政官廳ニ於テ、定員ノ三人ヤ五人ノ増減ハ固ヨリ吾ニ云フベキ事柄デナシ、併ナガラ行政裁判所即チ行政官府ノ外ニ獨立セネバナラヌ裁判所、帝國議會ノ外ニ獨立セネバナラヌ裁判所、而モ其經紀スル所ノ關係ハ公法上ノ權利關係デアル、而シテ其定員ト云フモノハ、法律竝ニ法律ノ委任ニ基キタル命令ニ依シテ定メラレテゴザイマスル、員數ヲ悉ニ政府ガ五人ヲ殖ヤシテサウシテ此定員竝ニ法律ト云フモノヲ無視スルト云フ事柄ハ、實ニ亂暴ナ處置デアルト私共考ヘテ居ルノデアル、然ルニ說ヲ爲ス者ノ申シマスルノニ、元來此法律ニ基キタル定員法律ノ委任ニ依リテ定メラタル命令ヲ元トシテノ此定員令ト云フモノハ、固ヨリ政府ノ眼中ニ在ルベキモノデハナインデアル、行政裁判所ノ如キニ至シテハ殆ド裁判所ノ中ニ於キマシテハ、今日ノ狀態裁判所ト云フモノハ大切デゴザイマスガ、今日ノ現在ノ行政裁判所ノ狀態ト云フモノハ、恰モ一ノ仙境デアル、隱居場所デアル、老朽事ニ堪ヘザル所ノ行政官、或ハ他ニ運用ノ利カナイ所ノ裁判官、或ハ郡長ノ古手種々様々ナ者ヲ以テ網羅セラレテ居ル所ノ裁判所デアルカラシテ、世人ガ定員令杯ニ氣ノ附クベキ咎

ハナイノデアルカラシテ、ツウシト使シテ置ケバ差支ナイト云フコトデ以テ、斯ウ云フモノガ出來タト云フコトヲ聞イテ居ルノデアル、併ナガラ是ハ真相デアル、真相デアルガ故ニ表テニハ言ハナイノデゴザイマスガ、畢竟スル所ハ今日實際ノ狀態ヲ見マシテハ正ニ然ルベキコトデアルト確信シテ居ルノデアル、殊ニ行政官廳ガ裁判官ヲ使フト云フ事柄ハ不法デゴザイマスケレドモ、行政官ガ行政裁判所ノ評定官ト云フモノヲ使シテ、サウシテ自己ノ非違ト云フモノヲ蔽ヒタイト云フ念情ハ、是ハ今日實際ノ上ニ於テ屢々見ル所ノコトデアル、斯ノ如ク非違ヲ蔽ヒト云フコトヲシヤウト思フニ附イテハ、成ルタケ役ニ立タナシ、成ルタケ物ヲ識ラナイ、都合ノ好イ者ヲ澤山引附ケテ置クガ宜イ、定員令ニ何ノ頼著スル所カアラント云シテ設ケラレタソナラバ、奈何ニ政府ガ法律ト云フモノヲ無視シ、法律ノ委任ニ基キタル命令ヲ無視シテ居ルカト云フ事柄ニ附キマシテハ、實ニ私ハ慨歎ニ堪ヘヌノデアル、別言セバ此處置ハ帝國議會ノ有シテ居ル立法議權ヲ蹂躪シテ居ルト私ハ考ヘルノデアリマス、殊ニ此行政裁判所ノ評定官ト云フモノヲ十六人ニ致シマシタト云フ事柄ハ、何レノ時カラ行レタカト云フ點ニ附キマシテ、深ク諸君ノ御考案ヲ願ハナケレバナラヌ點ガアルノデアル、ソレハ明治三十二年ノ勅令第三百五十五號デゴザイマス、此勅令ト云フモノニ據リマシテ、定員令ト云フモノヲ改正シタ積ニナシテ居ルノデアル、政府ハ奈何ニシテ改正シタ積ニナシテ居ルカト云ヘバ、元ノ定員令ニハ定員十一人トナシテ居ルノデアル、然ルニ

昨年ノ三百五十五號ノ勅令ニ據シテ彼ノ定員令ヲ改正シテ、定員十一人ト云フ頭ノ上ニ持シテ往シテ、專任ト云フ二字ヲ加ヘタノデアル、專任ト云フ二字ヲ加ヘタガ故ニ、專任一人デアシテ兼任ガ幾人デモ宜シイノデアル、幾十人幾百人デモ宜シト云フ趣意ニ改メタ積ニナシテ居ルノデアル、併ナガラ是ハ私ハ大ナル間違デアラウト思フ、法律ノ委任ト云フ事柄ハ私ハ一事件ニ限ラネバナラヌモノデアルト思フ、一事項ニ限ラネバナラヌモノデアルト思フ、而モ限定セラレタル範圍ニノミ委任セラレタモノト解釋セネバナラヌト私ハ思フノデアル、明治二十九年ノ法律第六十三號ハ臺灣ト云フ範圍ノミニ限定セラレ、サウシテ其範圍内ニ於テ、法律ニ代ルベキ命令ノ出來ルト云フ委任ヲシタニ外ナラヌノデアリマス、之ヲ擴メテ日本内地ニモ及ブベキモノノデアルト云フガ如キ解釋ハ、到底私ハ採レヌモノデアルト考ヘル、即チ行政裁判所ハ定員ト云フモノヲ勅令ニ讓ルト云フ委任ヲ爲シタル以上ハ、其委任ニ基イテノ定員令が出來タ以上ハ、既ニ其委任ノ目的ハ達セラレテ居ルノデアル、法律ノ委任ト云フモノハソレデ完結シテ居ルノデアル、然ルニ之ヲ尙ホ他ノ方法ヲ以テ改正スルト云フコトニナリマシタナラバ、立法ノ委任範圍ト云フモノハ實ニ廣キニ失スルノミナラズ、元來法律ノ委任ト云フ事柄ノ原則ニモ背クノデアル、是ガ出來ルナラバ又更ニ改正ガ出來ル、又更ニ改正ガ出來ルト云フノデ連環極リナキニ至シタナラバ、殆ド立法權ノ實際ニ活動スペキ場合ト云フモノガナインノデアル、勿論今日ノ法律——政府ガ議會ニ提出スル法律ノ検査院ノ事務章程ト云フ命令、是等ハ孰モ間違シテ居ルノデアル、即チ一々之ヲ舉グレバ際限ノナイコトデアリマスカラ、是ハ例ニ採シテ事實ハ申シマセヌ、ソレデゴザリマスカラシテ、命令ト法律ト混同シテ居ル例ハ幾ラモ云フモノガナインノデアル、勿論今日ノ法律——政府ガ議會ニ提出スル法律ノ上ニ、法律ト命令ト混同シタルモノハ幾多モアルノデアル、現ニ此十三議會ニ提出ニナリマンタ領事官ノ職務ニ關スル法律ノ如キ、或ハ本年ニナシテ會計検査院ノ事務章程ト云フ命令が出來マシタ、此領事官ノ法律或ハ又會計検査院ノ事務章程ト云フ命令、是等ハ孰モ間違シテ居ルノデアル、即チ一々之ヲ舉グレバ際限ノナイコトデアリマスカラ、是ハ例ニ採シテ事實ハ申シマセヌ、ソレデゴザリマスカラシテ、命令ト法律ト混同シテ居ル例ハ幾ラモアリマスガ、凡ソ此行政裁判所ノ評定官ノ兼任ニ關スルコト程、委任ノ範圍ヲ超越シタモノハナシ、委任ノ目的が終了シテ居ルニモ拘ラズ、尙ホ新ニ法律ノ委任アリタル如クニ考へ、即チ新ナル事柄ヲ改正ト云フ文字ノ中ニ埋合ハセテ、サウシテ此縛縛ヲ爲スト云フ事柄ニ至シテハ實ニ驚入ルノ外ハナインデアル、是モ私ハ議會ノ有スル立法ノ權限ト云フモノヲ政府ガ奪取シタト解釋スルノ外ハアルマイト思ヒマス、ソレデアリマスカラシテ、私ハ此三百五十五號ト云フ勅令ト云フモノハ、元來不法無效デアルト思フノデアル、此勅令ニシテ不法無效ナリトセバ、定員十一人ト云フ以前ノ勅令——此明治二十三年百十一號ガ現存シテ居ルト申サネバナラヌノデアル、之ヲ現存シテ居ルモノト解釋スレバ、今日ノ定員十六人ト云フ事柄ハ、實ニ無法ノ處置ト言ハネバナラヌノデアル、此無法ノ處置ヲ敢テ致シテ居ルト云フ事柄ハ、如何ナル趣意ニ基イテ居ルカト云フコトガ質問ノ大趣意デゴザイマス、併ナガラ假ニ此勅令ト云フモノモ、即チ委任ノ復タ委任ト云フ事柄モ有效デアルト解釋ヲ

致シタ所デ、私ハ定員ト云フモノ、數ガ十六人ニナルト云フ道理ハ決シテナ
イト思フノデゴザイマス、即チ專任デモ評定官アル、兼任デモ評定官アル
ル、孰モ評定官アル以上ハ、專任ト兼任トニ限ラズ、定員十一人ト云フモ
ノニ響ヲ來スト云フコトハナイノデアリマスカラ、定員無制限ト解釋ヲ下ス
コトハ到底出來ヌノデアリマス、然ルニ今日實際五人ノ多イ評定官ヲ見ルニ
至ツタノハ、新ニ改正セラレタル即チ昨年三百五十五號ノ勅令ノ趣意トシテ
モ私ハ背イテ居ルト思フノデアリマス、而シテ此五人ノ評定官ト云フ者ハ如
何ナル者ヲ以テ任命セラレテ居ルカト繹ネテ見マスレバ、實ニ此點ニ附キマ
シテハ懲入ルノ外ハナイト云フノ任命方法アルノデアル、貴族院ノ書記
官長、大藏省ノ參與官、遞信省ノ通信局長、農商務省ノ參事官、内務省ノ地方局
長、斯ウ云フ人々ガ新ニ加リタル、即チ定員外ニ加リタルノ行政裁判所ノ評
定官アルノデアリマス、併ナガラ諸君、行政裁判所ニ於テ常ニ被告ト爲ルモ
ノハ何人アルカ、各省行政長官アル、而シテ就中遞信省内務省、大藏省、
農商務省ノ如キハ、行政裁判所ニ於テ被告人ト爲ルベキ場合ノ最モ多キ役所
アルノデアル、此自ラ被告取ラル、官廳ノ——大臣ナラバ格別、而モ其屬
僚タル人々ガ、其大臣ヲ審判スル所ノ行政裁判所ノ評定官ニナルト云フコト
ニ至ツタナラバ、此行政裁判所ノ裁判權ノ獨立ト云フモノハ、事實ノ上ニ於テ
保得ベキヤ否ヤ、私ハ疑フマデモナイ事柄アルト考ヘルノデアリマス、
勿論、是等ノ人が殊更ニ好ンデ不都合ノコトヲ致スト云フコトハ、固ヨリ私
ハ信用ハ致シマセヌケレドモ、併ナガラ斯ノ如キ事柄ハ、德義上憲法政治ノ
德義問題トシテ法律デ之ヲ禁ジナイト云ウテモ之ヲ避ケルト云フコトハ相當
デアラウト思フ、殊ニ況ヤ行政裁判所ニ於テ判断スベキ事柄ト云フモノハ、明
治二十三年法律第百六號ニ明ニ規定セラレテ居ルガ如ク、斯ノ如キコトハ官
廳ニノミ關スル事項アルノデアル、租稅竝ニ手數料ノ賦課ニ關スル事件、
是ハ大藏省ノ所管アル、租稅滯納處分ニ關スル件、是モ大藏省ノ所管デア
ル、營業免許ノ許否又ハ取消ニ關スル件、是ハ大藏省所管ノ部分モゴザリマ
スルシ、又内務省ノ所管ニ屬スル部分モアル、時トシテハ遞信省ニモ及ブコ
トガアル、ソレカラ水利及土木ニ關スル件、是ハ内務省ノ所管アル、ソレカ
ラ土地ノ官民有區分ノ査定ニ關スル件、是ハ内務省ノ所管アル、時トシテハ農商
務省ニ牽連スベキ場合モアルノデアリマス、斯ク行政裁判所ニ於テ裁斷スベ
キ事件ヲ數ヘ來シテ見マスレバ、一トシテ今度任命セラレマシタ兼任評定官
ノ本家本元タル、官廳ニ關係セヌコトハナイノデゴザリマス、曰ク大藏省、曰
ク農商務省、曰ク内務省、曰ク遞信省ト云フ振合ニナシテ居ルノデアル、斯ノ
如クニシテ其裁判官ノ裁判ト云フモノガデス、適正ニ判断シ得ラベキ關係
ニナシテ居ルヤ否ヤト云フ事柄ハ、凡ソ官吏ノ特性ト云フモノハ、長官ニ媚諂フ
テサウシテ立身出世ヲシヤウト云フノガ、殆ド唯一ノ祕訣ニ相成ラテ居ルト云
フコトヲ考ヘ、又自ラ掌ル所ノ事務ニ缺點ヲ附ケナイヤウニ成ルベク疵ヲ附
ケナイヤウニシタイト云フコトガ人情ノ弱點アルト云フ點ヨリ考ヘ、彼ヲ

考ヘ此ヲ顧ミマンタナラバ、斯ノ如キ評定官ノ裁判ト云フモノニ眞ノ公平ト
云フコトガ含マレテ居ルカドウカ、獨立ト云フコトガ保タレ得ベキヤ否ヤト
云フコトハ、疑フマデモナイ事柄アルト思ヒマス、然ルガ故ニ、斯ノ如キ
評定官ノ裁判ハ、其評議壇ニ議決權ノ完全ナル效用ヲ妨ゲラル、場合ガ多イ
シテハ懲入ルノ外ハナイト云フノ任命方法アルノデアル、貴族院ノ書記
官長、大藏省ノ參與官、遞信省ノ通信局長、農商務省ノ參事官、内務省ノ地方局
長、斯ウ日夕裁判所ニ出入シテ評定官ノ椅子ヲ共ニ致シテ居ルテ、互ニ卓ヲ圍ンデ
談ズル所ヲ聞ケバ、自己ノ曾テ與ツタル事件アル、自己ノ官廳ニ於テ取扱
ヒタル事件アルト云フ場合ニナレバ、是モ矢張リ人情ノ弱點アルト云フコトガ
ガラ日夕裁判所ニ出入シテ評定官ノ椅子ヲ共ニ致シテ居ルベキカト云フコトハ、
深ク考ヘネバナラヌコト、思フノミナラズ、行政裁判法ノ第三十二條或ハ三
十五條等ニ依シテ見レバ、此行政官廳ノ役人ハ即チ參事官トカ局長トカ云フ
モノハ、被告タルベキ大臣ノ代理人ト爲シテ辯護人ト爲シテ裁判所ニ出ネバ
ナラヌ職責ノアル人アル、此人ガ評定官ニナルト云フコトハ、恰モ普通裁
判所ニ於テ辯護人ガ裁判官ヲ兼ネルト少モ異ナル所ハナイノデアル、斯ノ如
キ事相ト云フモノハ、今日行政裁判ノ上ニ於テ累々トシテ見ル所ノ有様デゴ
ザイマス、加之此兼任評定官ト云フ人……

○議長(片岡健吉君) 議論ニ涉リマセヌヤウニ……

○花井卓藏君(百五十七番) 古キ評定官ト比較ラシテ見ルト、或ハ技倆ノ點
ニ於テ、或ハ權力ノ點ニ於キマシテ、一層ノ疑ヲ懷カネハナラヌコトガアル
ノデゴザイマス、兼任制度ノ以前ニ於テモ、明治二十三年ニ行政裁判所が開カ
レテ以來、今日ニ至ルマデ幾十百件幾百千件ノ行政事件が裁斷セラレテ居ル
ノデアルカ(「簡單々々」ノ聲起ル)行政處分ニ依テ私人ノ權利ヲ害セラレテ
居ルト云フ、原告ノ主張ガ立ツタコトハナイノデアル、大抵ハ行政官ノ都合ヲ
見計シテ其都合ガ好イヤウニ裁判シテ、原告ノ失敗ニ終ラヌコトハナイノデ
アル、今日行政裁判所ノ門戸ヲ閉チタ方ガ宜イト云フ議論サヘアルノデアル、
然ルニ是ガ兼任ノ制度ニナシテ、而モ當該官廳、而モ當事者タル人間ガ多ク
評定官ヲ兼任スルト云フ場合ニハ、其弊害ガ一層ニ助長ヲ來スデアラウト私
ハ思フノデアリマス、之ヲ要スルニ行政裁判所ノ制度ハ、立憲政體ノ法治國ト
シテカラニ、法律上ノ理由トシテハ、一私人ノ權利ト云フモノハ、國家ト雖モ
枉ダクト云フコトハ出來ナイト云フコトカラ評定ラスル所デアリマス、又政
治上ノ理由トシテハ、官民調和ノ機關トシテ權利ヲ害シタ場合ニ於テハ、決シ
テ憚ル所ナク私人ノタメニ一私人ノ權利ト雖モ伸張スルコトニ勉メ、政府ハ
其過ヲ改ムニ憚ラヌ效用ノ態度ヲ示ス機關アルマス、即チ法政國ガ行政
裁判ノ制度ヲ重要視スルト云フ所以ハ、誠ニ此處ニアルノデゴザイマス、然
ルニ今日實際ノ有様ハ斯ノ如キ次第デゴザイマスル致シマスレバ、行政裁
判所ヲ設ケテ私人ノ權利ヲ保維スルト云フコトハ、即チ紙上ノ制度アル、
因テ以テ其權利ヲ保ツト云フコトハ紙上ノ權利デアル、紙ノ上ノ權利デアル、

斯ノ如キ事柄ハ實ニ羊頭狗肉ノ話デゴザイマス、立憲國ノ制度ノ上ニ於テ決シテ許スベカラザルコトデアリマス、普通裁判所ニ於ケル如ク、行政裁判所ニ於テ不服デアルト云フテ、上級審ニ控訴スルトカ上告スルトカ云フ途ハナ

イ、間違ッテモ再審ヲ求メル途ハナイノデアル、一刀兩斷デ此裁判ニ服從シナケレバナラヌノデゴザイマス、然ルニ今日ノ状態斯ノ如クテアルトシマスレバ、實ニ慨嘆ノ至リニ堪ヘナイ、即チ本員等ガ此點ニ附イテ政府ニ向シテ質問ヲシナケレバナラヌ場合ニ際會シタ次第デゴザイマス、最後ニ一言致シ

テ置キタ伊事柄ハ、現在行政裁判所ノ有様ヲ見マスルト、決シテ事務ハ繁激デハナイノデアル、一箇月ニ十件以上裁判シタ例シハナイ、ソレカラ又審問ヲシテモ判決ヲ一年モ二年モ延シテ置クト云フコトハ幾ラモアル、ソレ故裁判事務ハ敏活デナイ、繁激デモナイ、此繁激ナラザル敏活ナラザル裁判所ガ、

其事件ヲ裁断スルニ毫モ困難ヲ感ゼヌ裁判所ガ、俄ニ定員十一人ヲ増加シテ——法律ノ委任ヲ無視シテ俄ニ五人ノ兼任評定官ヲ置キ、而モ其五人ノ評定官ハ常ニ被告タルベキ大臣ニ隸屬スル者ヲ用フルト云フナラバ、今後ノ行政裁判ト云フモノハ實ニ懸念ニ堪ヘマセヌ、私ハ行政裁判所ガ行政處分ニ對

シテ有スル權利、帝國議會ガ行政監督ニ於テ有スル權利ト、兩々相對シテ離ルベカラザル大切ニ關係ト信ジマスガ故ニ、稍冗長ニ涉ルヲモ省ミズ諸君ノ御清聽ヲ済シタ次第デゴザイマス、政府ハ速ニ此問題ニ對シテ相當ノ答辯ヲ

○議長(片岡健吉君) 請暇ノ件ニ附イテ又御詰リスルコトガアル、今村千代太君ガ實父ノ病氣看護ノタメ、今日ヨリ一週間ノ請暇ヲ申出ラレマシタ御異議ガナケレバ許スコトニ致シマス

(「異議ナシ異議ナシ」ノ聲起ル)

○議長(片岡健吉君) 西田收三君ガ病氣ノタメ、今日ヨリ二十四日マデ十日間ノ請暇ヲ申出ラレマシタ——御異議ナケレバ許スコトニ致シマス

○議長(片岡健吉君) 次ニ山田莊左衛門君ハ病氣ノタメ、本日ヨリ三週間ノ請暇ヲ申出ラレマシタ、御異議ガナケレバ許スコトニ致シマス

(「異議ナシ異議ナシ」ノ聲起ル)

○星亨君(九十一番) 是ヨリ衆議院議員選舉法ノ委員會ヲ開キタウゴザイマス、開會中デゴザイマスカラ、許可ヲ願ヒマス

○議長(片岡健吉君) 星亨君カラ衆議院議員選舉法改正法律案ノ委員會ヲ開キタイト云フコトデアリマス、御異議ハアリマスマイカ

○議長(片岡健吉君) 異議ガナケレバ許スコトニ致シマス——尙ホ久米民之助君ヨリ、高等學校設置ニ關スル建議案ノ委員會ヲ開キタイト云フコトデゴザイマス

(「異議ナシ異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○議長(片岡健吉君) 御異議ガナケレバ許スコトニ致シマス——是ヨリ議事日程ノ第一間接國稅犯則者處分法改正法律案第一讀會——議案ノ朗讀ヲ省略致シマス、自賀田政府委員

第一 間接國稅犯則者處分法改正法律案(政府提出) 第一讀會

間接國稅犯則者處分法改正法律案

第一條 間接國稅ニ關スル犯則アルトキハ收稅官吏ハ犯則事實ヲ證明スヘキ物件、帳簿、書類等ノ差押ヲ爲スコトヲ得

第二條 收稅官吏ハ犯則事實ヲ證明スヘキ物件、帳簿、書類等ヲ藏匿スト認ムル場所ニ臨檢シ搜索ヲ爲スコトヲ得

第三條 收稅官吏ハ犯則事件ヲ調查スル爲必要ト認ムルトキハ犯則嫌疑者、参考人ヲ訊問スルコトヲ得

第四條 收稅官吏臨檢、搜索、訊問又ハ差押ヲ爲ストキハ其ノ身分ヲ證明スヘキ證票ヲ携帶スヘン

第五條 收稅官吏臨檢、搜索、訊問又ハ差押ヲ爲スニ當リ必要ナルトキハ警察官吏ノ援助ヲ求ムルコトヲ得

第六條 收稅官吏搜索ヲ爲ストキハ搜索スヘキ家宅、倉庫其ノ他ノ場所ノ所有主、借主、管理者、事務員又ハ同居ノ親族、傭人、隣佑ニシテ成年ニ達シタル者ヲシテ立會ハシムヘン

第七條 收稅官吏犯則事實ヲ證明スヘキ物件、帳簿、書類等ヲ差押ヘタルトキハ其ノ差押目錄ヲ作ルヘシ

差押物件ハ便宜ニ依リ保管證ヲ徵シ所有者又ハ市町村ヲシテ保管セシムルコトヲ得差押物件ノ保管證ニ關シテハ印紙税ヲ納ムルコトヲ要セス

其ノ代金ヲ供託スルコトヲ得

第八條 收稅官吏ハ日没ヨリ日出マテノ間臨檢、搜索又ハ差押ヲ爲スコトヲ得ス但シ現行犯ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

第九條 收稅官吏臨檢、搜索、訊問又ハ差押ヲ爲ス間ハ何人ニ限ラス許可ヲ得スシテ其ノ場所ニ出入スルヲ禁スルコトヲ得

第十條 收稅官吏臨檢、搜索、訊問又ハ差押ヲ爲シタルトキハ其ノ顛末ヲ記載シ立會人又ハ訊問ヲ受ケタル者ニ示シ共ニ署名捺印スヘシ立會人又ハ訊問ヲ受ケタル者署名捺印セス又ハ署名捺印スルコト能ハサルトキハ其

第一條 犯則事件ノ證憑集取ハ事件發見地ノ收稅官吏之ヲ爲ス同一犯則ノ旨ヲ附記スヘシ

事件ニ付數稅務署管轄區域内ニ於テ發見セラレタルトキハ各發見地ニ於

テ集取セラレタル證憑ハ之ヲ最初ノ發見地ノ收稅官吏ニ引繼クヘシ
第十二條 収稅官吏前各條ニ依リ臨檢、搜索、訊問又ハ差押ヲ爲スハ其ノ
所屬稅務署ノ管轄區域内ニ限ル但シ既ニ著手シタル犯則事件ニ關聯シ他
ノ稅務署ノ管轄區域ニ於テ臨檢、搜索、訊問又ハ差押ヲ爲スヲ必要トス
ルトキハ此限ニ在ラス

稅務署長ハ其ノ管轄區域外ニ於テ犯則事件ノ調査ヲ必要トスルトキハ之
ヲ其ノ地ノ稅務署長ニ嘱託スルコトヲ得
第十三條 収稅官吏犯則事件ノ調査ヲ終リタルトキハ之ヲ稅務管理局長ニ
報告スヘシ但シ左ノ場合ニ於テハ直ニ告發スヘシ

一 犯則嫌疑者ノ居所分明ナラサルトキ
二 犯則嫌疑者逃走ノ虞アルトキ
三 證憑埋滅ノ虞アルトキ

第十四條 稅務管理局長ハ犯則事件ノ調査ニ依リ犯則ノ心證ヲ得タルトキ
ハ其ノ理由ヲ明示シ罰金若ハ科料ニ相當スル金額、沒收品ニ該當スル物
品、徵收金ニ相當スル金額及書類送達並差押物件ノ運搬、保管ニ要シタ
ル費用ヲ指定ノ場所ニ納付スヘキ旨ヲ通告スヘシ但シ犯則者通告ノ旨ヲ
履行スル資力ナシト認ムタルトキハ直ニ告發スヘシ

第十五條 第十四條ノ通告アリタルトキハ公訴ノ時效ヲ中斷ス

第十六條 犯則者通告ノ旨ヲ履行シタルトキハ同一事件ニ付訴ヲ受クルコ
トナシ

第十七條 犯則者通告ヲ受ケタル日ヨリ七日以内ニ之ヲ履行セサルトキハ
稅務管理局長ハ告發ノ手續ヲ爲スヘシ但シ七日ヲ過クルモ告發前ニ履行
シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十八條 犯則事件ヲ告發シタル場合ニ於テ差押物件アルトキハ差押目録
ト共ニ裁判所ニ引繼クヘシ

前項ノ差押物件所有者又ハ市町村ノ保管ニ係ルトキハ保管證ヲ以テ引繼
ヲ爲シ差押物件引繼ノ旨ヲ保管者ニ通知スヘシ

第十九條 稅務管理局長犯則事件ヲ調査シ犯則ノ心證ヲ得サルトキハ其ノ
旨ヲ犯則嫌疑者ニ通知シ物件ノ差押アルトキハ之ヲ解除ヲ命スヘシ

第二十條 本法ニ於テ間接國稅ト稱スルハ勅令ノ定ムル所ニ依ル

第二十一條 本法中市町村吏員又ハ市町村トアルハ市制町村制ヲ施行セサ
ル地ニ在リテハ之ニ準スヘキモノニ適用ス

○政府委員(目賀田種太郎君) 現行ノ間稅犯則者處分法ハ、帝國議會ノ開設

前ニ制定ニナリマシタ程ニアリマシテ、今日ニ至ラテハ往々事宜ニ適セザル
廉モ少カラヌ譯ニアリマス、ソレニ訊問臨檢等ノコトモ一々法律ニ規定シテ
アリマシテ、自ラ刑事訴訟法ノ手續ニ據ルヤウニナフテ居リマスカラ、其處分

ニ瓦リマシテモ、多少司法ノ如キ手續ノコトニ瓦リマシテ、實行上稍、穩ナ
ラザル廉モアリマス、今稅法ノ實行ノ確實ヲ期スルト共ニ、又同時ニ人民ノ
權利ヲ保護シ、又其便益ヲ圖ルコトニ必要ナコトデアリマス、故ニソレコレ
ノ點ヲ以チマシテ本案ノ改正ヲ提出シタ譯ニアリマス、茲ニ御協贊ヲ得シコ
トヲ希望致シマス

○恵松隆慶君(百四十二番) 本案ハ別ニ質問モナイヤウデアリマスカラ、次
ノ日程ニ移ラレンコトヲ希望致シマス
○議長(片岡健吉君) 格別御質問ガゴザイマセヌケレバ、特別委員ノ選舉ニ
移リマス

第二 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉
○恵松隆慶君(百四十三番) 議長ノ指名デ、九名ノ特別委員ヲ置カレンコト
ヲ希望致シマス

○議長(片岡健吉君) 御異議ガアリマセヌケレバ、九名ノ特別委員ヲ議長ガ
指名致シマス
○議長(片岡健吉君) 御異議ガナイト認メマス――次ハ第三獸疫豫防法中改
正法律案、第一讀會ノ續、委員長報告寺田彦太郎君

〔寺田彦太郎君演壇ニ登ル〕
○寺田彦太郎君(百五十五番) 私ハ獸疫豫防法中改正法律案ノ特別委員會ノ
御報告ヲ申上ゲマス、此事ハ舊曆十八日ニ委員長理事ノ互選ヲ行ヒマシテ、
委員長ハ不肖私、理事ハ浦野錠平君ガ當選セラレテ、十九日ニ會議ヲ開キマ
シテ政府委員ニ質問ヲ致シマシタ所ガ、是ハ理由書ニモアリマス通、現行法
デハ獸疫ノアリマスノハ政府デ撲殺シテ其辨償ヲ與ヘマス、勿論極近接シタ
ル臺北朝鮮环ニ於キマシテモ、獸疫ガ流行致シマスト、其病牛ヲ買入レマシ
テ、僅ノ日數デ我國ニ居キマスモノデアリマスカラ、斃死シマセヌ中ニ持來リ
ソレヲ撲殺シテ政府ノ辨償ヲ得マス、故ニ態ト曰ク付ノ獸類ヲ低價ニ買入レ
テ、持込シテ辨償ヲ取ルト儲カルト云フ譯ニナクテ居リマスノデ、是ハ法律
ヲ改正セヌト奸商ガ態ト病ノ兆ノアルモノヲ持込ム譯ニナリマスカラ、是ハ
片時モ早ク法律ヲ改正シナケレバナラヌ、今度ノ第十一條ノ第五號ノ次ヘ六
號ノ法文ヲ入レマスト、サウ云フモノヲ撲殺シテモ辨償ヲ與ヘマヤウニ致シ
マス、此奸商ノ弊ヲ禁絶スル譯ニアリマス、是ハ片時モ早ク改正アランコト必
要ト云フ考テ、委員會ハ全員可決スベキモノト即決致シマシテ、此段御報告
致シマス

○恵松隆慶君(百四十三番) 本案ハ極簡單デ且急要ノモノニアリマスカラ、
要ト云フ考テ、委員會ハ全員可決スベキモノト即決致シマシテ、此段御報告
致シマス
○恵松隆慶君(百四十三番) 本案ハ極簡單デ且急要ノモノニアリマスカラ、
要ト云フ考テ、委員會ハ全員可決スベキモノト即決致シマシテ、此段御報告
致シマス

○議長(片岡健吉君) 恒松隆慶君カラ本案ハ極ク簡單デアルカラ、讀會省略ヲシテ確定シタイト云フ動議ガ出マシタガ、御異議アリマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ
○議長(片岡健吉君) 御異議ガナケレバ、讀會ヲ省略シテ直チニ本案ヲ議スルコトニ致シマス——本案ハ原案通御異議アリマセヌカ

獸疫豫防法中改正法律案

確定議

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(片岡健吉君) 御異議ガナケレバ、本案ハ可決シタモノト認メマス、次ハ議事日程第四官吏恩給法中改正法律案、第一讀會ノ續、安部井磐根君——内藤守三君

第四 官吏恩給法中改正法律案(政府提出)

第一讀ノ續(委員長)
(報告)

○恒松隆慶君(白四十二番) 報告ハナクトモ報告書デ分々テ居リマスカラ私ハチヨウト政府委員ニ御尋シタウゴザイマスガ……
○議長(片岡健吉君) 諸君ニ御詣リシマスガ、委員長理事共ニ出席ニナツテ居リマセヌカラ 本案ハ延バスコトニ致シマスカ、又極簡單デアルカラ報告ガナクトモ、議事ヲ開クコトニ致シマスカ

〔延バスガ宜イ〕又「ヤルベシ」ト呼フ者アリ

○議長(片岡健吉君) 然ラバ採決致シマス、議事日程ノ第四ハ委員長ノ報告ガナイニ依シテ讀事ヲ延バスト云フコトニ同意ノ諸君ノ起立ヲ請ヒマス

起立者 多數

○議長(片岡健吉君) 多數ト認メマス、ソレデハ議事日程ノ第四ハ延バスコトニナリマシタカラ、五六モ延バシテ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(片岡健吉君) 然ラバ延バスコトニ致シマス、次ハ議事日程ノ第七重要輸出品同業組合法中改正法律案、第一讀會、讀案ノ朗讀ヲ省略致シマス

第七 重要輸出品同業組合法中改正法律案(恒松隆慶外三名提出)

第一讀會
(利光鶴松君演壇ニ登ル)

重要輸出品同業組合法中改正法律案

「重要輸出品同業組合法」ヲ「重要物産同業組合法」ニ改ム

第一條中「重要輸出品」ヲ「重要物産」ニ改ム
第三條中「五分ノ四」ヲ「三分ノ二」ニ改ム
附則第十九條削除

(恒松隆慶君演壇ニ登ル)

○恒松隆慶君(百四十三番) 重要輸出品同業組合法案ヲ提出致シマシタ理由ヲ簡單ニ述ベテ御賛成ヲ求メマス、極此改正ハ簡単ナコトデゴザイマスル

ガ、其條項ハ最モ必要ト認メテ居ルノデアリマス、重要輸出品同業組合法ト云フガアリマスケレドモ、サウ云フ名義ニナツテ居リマスガ故ニ、其以前ノ物產組合ト云フモノガ實際成立スルコトガ殆ドナキガ如キ有様デゴザイマス、又同業者五分ノ四以上トアリマス、是ハ絕對的ニ斯ノ如キ多數ノ加入者ヲ求メネバ、新ニ其組織ガ出來ナイト云フコトニナリマスル、縱シ之ヲ組織ヲスル申シマシテモ、少クモ一年二年ノ手數ヲ要シナケレバ、一地方デハ容易ニ組合ノ成立ヲ見ルト云フコトハ難イノデアリマス、斯ノ如ク到底一般ニ望ミヲ得ルコトガ出來マセヌ故ニ、是等ノ條項ヲ改正ヲ致シタイト云フノデアリマス、又本法ノ附則ノ第十九條ニ依リマスルト、自動的準用スベキ第十四條ノ強制的組織ノ命令スベカラザルコトガアリマス、故ニ同業組合發布前カラ準則又ハ訓令等ニ依リマシテ設置致シタル所ノ、舊團體ノ組合ト云フモノハ、五百六十ノ組合ガアルト云フコトデアリマス、然ルニ此新法發布ノ當時ハ從來ノモノハ、過半以上解散致シタヤウナ有様デゴザイマス、デ是等ノコトヲ削除致シタイト云フノデアリマス、而シテ此案ハ極ク簡單ナ必要ノ修正デゴザイマスガ、一應委員ニ付託シテ下サイマスレバ尙ホ進ンデ當局者ニ交渉ヲシ、又幾分ノ修正ヲ試ミタイト云フコトモ多少アルノデアリマス、ドウカ速ニ九名ノ委員ニ託サレテ調査アランコトヲ、併テ希望ヲ申述べテ置キマス

〔賛成〕ト呼フ者アリ

○議長(片岡健吉君) 本案ハ九名ノ特別委員ヲ議長ガ選舉致シテ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(片岡健吉君) 御異議ガナケレバ、其通致シマス、議事日程ノ第八質屋取締法中改正法律案、第一讀會、讀案ノ朗讀ヲ省略致シマス

第八 質屋取締法中改正法律案(利光鶴松君外八名)

第一讀會
(利光鶴松君演壇ニ登ル)

質屋取締法中改正法律案

第十六條 削除
(利光鶴松君演壇ニ登ル)

○利光鶴松君(二百六十三番) 簡短ニ本案提出ノ理由ヲ述ベマス、概括シテ本案提出ノ理由ヲ述ベマスルガ、詰リ現行質屋取締法第十六條ハ、第一ニ法理ニ違背ヲシテ居ル、而シテ又實際ニ於テモ種々様ニナル害毒ヲ流シテ居ル、而シテ法理ニ背イテモ或ル場合ニ於キマシテハ、或ハ一國公安ノ維持上ニ於テ多少法理ニ反キマシテモ、或ル法律ヲ設ケルト云フ必要モアル場合ガアルノデアル、然ルニ質屋取締法ノ第十六條ノ如キハ全ク民事上ノ關係、即チ一個人財產上ノ關係ニ過ギナイ問題デゴザイマスカラ、決シテ公安トカ或ハ公益トカ云フヤウナ、格段ナル法理ヲ枉ゲテモ格段ノ規定ヲ置カナケレバナラヌト云フヤウナ必要理由等ガ一モナイノデアリマス、既ニ是ガ法理ニ反キ實際ニ弊害

ガアリ、而シテ公益若タバ公安ノ上ニ於テ之ヲ置カナケレバナラヌト云フ必
要ガナイ以上ハ、之ヲ改正スペキハ當然デアル、斯ウ云フコトニゴザイマス、
ソレカラ一步進ミマシテ、然ラバ實際ニ於テドウ云フ弊害ガアル、或ハ此規
定ガドウ云フ譯デ法理ニ反イテ居ルカ、斯ウ云フコトニナリマスト、多少ノ
説明ヲ要スルト思ヒマスガ、併シ賢明ナル諸君ハ是等ノコトハ本員ノ説明ヲ
俟タズシテ既ニ諒知セラル、コト、思ヒマスカラ、總テソレ等細目ノ説明ハ
略レマスガ、ドウゾ委員ニ付託シテ速ニ御賛成アランコトヲ望ミマス

〔「贊成」ト呼フ者アリ〕

○恆松隆慶君(百四十三番) 本案モ議長ノ指名デ、九名ノ委員ヲ設ケラレン
コトヲ望ミマス

○議長(片岡健吉君) 恒松隆慶君カラ委員說ガ出マシタガ、御異議ガアリマ
セヌカ

〔「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

○議長(片岡健吉君) 御異議ガナケレバ、九名ノ特別委員ヲ議長ガ指名スル
コトニ致シマス、議事日程ノ第九辯護士法中改正法律案第一讀會、議案ノ朗讀
ヲ省略致シマス

第九 辯護士法中改正法律案(安藤龜太郎君外二名 第一讀會 提出)

辯護士法中改正法律案

第十二條 削除

〔安藤龜太郎君演壇ニ登ル〕

○安藤龜太郎君(一百八十一番) 私ハ辯護士法中改正法律案ヲ提出致シテ置
キマシテゴザイマス、偕此辯護士法中第十二條ハ甚ダ人民ノ權利ヲ侵害シ、
竝ニ辯護士ノ權利ヲ大ニ破ルモノト私ハ考ヘマシテ、此法案ヲ提出致シタ所

以テゴザイマス、簡短ニ其理由ヲ申シマスルガ、辯護士法中ノ第十二條ニ
ハ、辯護士ノ登録ヲ受ケテ三箇年以上ヲ經過シナケレバ、大審院ニ於テ職務
ヲ行フコトガ出來ヌト云フコトニナクテ居リマスケレドモ、凡ソ國ノ内外ヲ
問ハズ、又民刑ノ事件ノ如何ヲ問ハズ、苟モ帝國主權ノ下ニ於テ司法機關ノ保
護ヲ受ケントスルモノハ、斯ノ如キ制裁ヲ受ケル理窟ハナイト私ハ考ヘマス、
實ニ是ハ人民ノ權利ヲ侵害スルノ甚シイモノト私ハ考ヘマス、而シテ又第一

審第二審ハ委任ヲ受ケタル辯護士ハ、其事件ノ事情ニ精通シテ居リマスカ
ラ、上告人ニ於テモ又其辯護士ニ依頼セントスルノハ是ハ依頼人ノ情デアリ
マス、然ルニ此第十二條ガアルタメニ、第一審ニ審ダケハ同一ノ辯護士ニ頼
ンデ、上告審即チ大審院ニ至リマスト云フト、其辯護ガ出來ヌト云フコト
ハ、實ニ依頼人ノ希望ヲ害シ併テ權利ヲ害スルモノト私ハ考ヘマス、而シテ
又此辯護士法ハ第二條第三條ニ於テハ、辯護士ニ獨立ノ資格ヲ以テシテアル
ニモ拘ラズ、第十二條ニ至シテ何等ノ原因ナタシテ、三箇年間大審院ニ於テ

務ヲ行フコトガ出來ヌト云フノハ、果シテ當初ノ獨立ノ資格ヲ與ヘタル精神
ニ適シテ居ルヤ否ヤ、吾々ハ甚ダ是ハ不適當ノモノト考ヘマス、而シテ何故ニ
辯護士ノ試験ヲ受ケテ三箇年以上上經過シナケレバ、大審院ニ於テ職務ヲ行フ
コトガ出來ヌカト云フ一ノ理由ハ、詰リ大審院ニ於テ職務ヲ行フニハ、相當
ナ經驗智識ト云フモノガナケレバナラヌト云フ理由ニ外ナラヌノデゴザイマ
ス、然ルニ大審院ハ法理ノ詰リ争ニシテ事情ノ如何ヲ決シテ問フ所デハゴザ
イマセヌ、却テ法理ノコトハ今日斬新ナ説ヲ有シテ居ル新鮮ナ辯護士ノ方ガ、
却テ老朽ノ辯護士ヨリモ大ニ優シテ居ル所ガアルカト私ハ深ク信ジマス、然
ルニ大審院ニ於テ斯ノ如キ新鮮ナ辯護士ノ途ヲ杜絶スルト云フコトハ、甚ダ
私ハ謂レナイモノト思ヒマス、而シテ又果シテ大審院ニ於テ職務ヲ禁ズルト
云フコトデアレバ、所謂控訴院ニ於テモ其職務ヲ行フコトヲ許シテ居リマス、大審院ニ於テ單ニ
云フコトニテアレバ、其職務ヲ行フコトヲ禁ジナケレバナラナイ、然
ルニ控訴院ニ於テハ其職務ヲ行フコトヲ許シテ居リマス、大審院ニ於テ單ニ
其職務ヲ行フコトガ出來ヌト云フコトハ、實ニ當初立法ノ精神ヲ貫徹スルコ
トノ出來ヌモノト私ハ考ヘマス、之ヲ要スルニ辯護士法十二條ハ實ニ社會ノ
進運ヲ阻遏シ、又國民ノ權利ヲ害スル不當ナル規定ト私ハ考ヘマス、故ニ是
ハ私ハ是非斯ウンナケレバナラヌト云フ精神デゴザイマス、故ニ此案ヲ提出
致シマシタカラ、何卒速ニ御賛成アランコトヲ希望致シマス

○恆松隆慶君(百四十三番) 是モ議長カラ、九名ノ委員ノ指名アランコトヲ
望ミマス

○議長(片岡健吉君) 恒松隆慶君カラ委員說ガ出マシタガ、九名ノ委員ヲ議
長ガ指名致シマシテ、御異議アリマセヌカ
〔「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

○議長(片岡健吉君) 御異議ガナケレバ其通致シマス、議事日程第十衆議院
議員選舉法改正案、第一讀會議案ノ朗讀ヲ省略致シマス、根本正君

第十 衆議院議員選舉法改正法律案(根本正君提出) 第一讀會

衆議院議員選舉法

第一章 選舉區及投票區

第一條 衆議院議員ハ各選舉區ニ於テ之ヲ選舉ス
選舉區及各選舉區ニ於テ選舉スヘキ議員ノ數ハ別表ヲ以テ之ヲ定ム

第二條 市町村ヲ以テ投票區トス

第三條 東京市京都市大阪市ニ於テハ區ヲ以テ投票區トス
任ス

第四條 東京市京都市大阪市以外ノ市及區町村ニ於テハ勅令ヲ以テ二箇以
上ノ投票區ヲ設ケ其ノ投票ニ關シ特別ノ規定ヲ設クルコトヲ得
町村組合ニシテ町村ノ事務ノ全部ヲ共同處理スルモノハ之ヲ一町村ト看
做ス

第五條 地方長官ハ選舉長トナリ管内ノ選舉事務ヲ統轄ス
第六條 選舉ハ内務大臣之ヲ監督ス

第七條 行政區畫ノ變更ニ因リ選舉區ニ異動ヲ生スルモ現任議員ハ之カ爲其ノ職ヲ失フコトナシ

第二章 選舉權及被選舉權

第八條 左ノ要件ヲ具備スル者ハ選舉權ヲ有ス

一 帝國臣民タル男子ニシテ成年ニ達シタル者

二 選舉人名簿調製ノ期日前滿一年以上其ノ選舉區内ニ住所ヲ有シ仍引續キ有スル者

三 選舉人名簿調製ノ期日前滿一年以上地租五圓以上又ハ満二年以上地租以外ノ直接國稅三圓以上若ハ地租ト其ノ他ノ直接國稅トヲ通シテ五圓以上ヲ納メ仍引續キ納ムル者

四 家督相續ニ依リ財產ヲ取得シタル者ハ其ノ財產ニ付被相續人ノ爲シタル納稅ヲ以テ其ノ者ノ納稅シタルモノト看做ス

第九條 前條ノ要件中其ノ年限ニ關スルモノハ行政區畫變更ノ爲中斷セラルコトナシ

第十條 帝國臣民タル男子ニシテ年齡滿二十五年以上ノ者ハ被選舉權ヲ有ス

第十一條 左ニ掲タル者ハ選舉權及被選舉權ヲ有セス

一 禁治產者、準禁治產者

二 身代限ノ處分ヲ受ケ債務ノ辨償ヲ終ヘサル者竝家資分散若ハ破產ノ宣告ヲ受ケ復權セサル者

三 剝奪公權者、停止公權者

四 禁錮以上ノ刑ノ宣告ヲ受ケタルトキヨリ其ノ裁判確定スルニ至ルマテノ者

第十二條 華族ノ戸主又ハ陸海軍軍人ニシテ現役中ノ者及戰時若ハ事變ニ際シ召集中ノ者ハ選舉權及被選舉權ヲ有セス

第十三條 官吏ハ被選舉權ヲ有セス

第十四條 神官、神職、僧侶其ノ他諸宗教師ハ被選舉權ヲ有セス其ノ之ヲ罷メタル後六箇月ヲ経過セサル者亦同シ

第十六條 府縣會議員ハ衆議院議員ト相兼ヌルコトヲ得ス

第三章 選舉人名簿

第十七條 投票管理者ハ毎年一月一日ヲ期トシ其ノ投票區内ニ住所ヲ有スル者ノ選舉資格ヲ調查シ選舉人名簿ヲ作ルヘシ

選舉人名簿ニハ選舉人ノ氏名、官位、職業、身分、住所、生年月、納稅額及納稅地等ヲ記載スヘシ

第十八條 選舉人其ノ所屬ノ投票區外ニ於テ直接國稅ヲ納ムルトキハ納稅地ノ當該行政廳ノ證明ヲ得テ選舉人名簿調製ノ期日迄ニ其ノ投票管理者者

ニ届出ヘシ其ノ期日迄ニ届出ヲ爲ササルトキハ其ノ納稅額ハ第八條ノ納稅額ニ算入セス

第十九條 投票管理者ハ二月五日ヨリ十五日間其ノ廳ニ於テ選舉人名簿ノ寫ヲ縱覽セシムヘシタルトキハ其ノ理由書及證憑ヲ具ヘテ投票管理者ニ申立テ其ノ訂正ヲ求ムルコトヲ得

第二十條 選舉人選舉人名簿ニ於テ人名ノ脱漏又ハ誤載アルコトヲ發見シタルトキハ其ノ理由書及證憑ヲ具ヘテ投票管理者ニ申立テ其ノ登錄ヲ求ムルコトヲ得

第二十一條 選舉人正當ノ事故ニ由リ第十八條ノ手續ヲ爲スコトヲ能ハズシテ選舉人名簿ニ登錄セラレサルトキハ前條ノ例ニ依リ其ノ登錄ヲ求ムルコトヲ得

第二十二條 縱覽期限ヲ經過シタルトキハ前二條ノ申立ヲ爲スコトヲ得ス

第二十三條 投票管理者ニ於テ第二十條第二十一條ノ申立ヲ受ケタルトキハ其ノ理由及證憑ヲ審査シ申立ヲ受ケタル日ヨリ二十日以内ニ之ヲ決定スヘシ其ノ申立ヲ正當ナリト決定シタルトキハ直ニ選舉人名簿ヲ訂正シ其ノ由ヲ申立人及關係人ニ通知シ併セチ之ヲ投票區内ニ告示スヘシ其ノ申立ヲ正當ナラスト決定シタルトキハ之ヲ申立人ニ通知スヘシ

第二十四條 申立人又ハ關係人ニ於テ投票管理者ノ決定ニ不服アルトキハ投票管理者ヲ被告トシ決定ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ七日以内ニ地方裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第二十五條 選舉人名簿ハ三月十五日ヲ以テ確定ス

選舉人名簿ハ次年ノ選舉人名簿確定ノ日迄之ヲ据置クヘシ但シ確定判決ニ依リ訂正スヘキモノハ投票管理者ニ於テ其ノ判決書ヲ受取リタルトキ直ニ之ヲ訂正シ其ノ由ヲ投票區内ニ告示スヘシ

第二十六條 總選舉ノ期日ハ勅命ヲ以テ之ヲ定メ少クトモ三十日前ニ之ヲ公布ス

第二十七條 選舉ハ投票ニ依リ之ヲ行フ

第二十八條 投票ハ一人一票ニ限ルモノトス

第二十九條 選舉人ハ其ノ選舉區ノ衆議院議員定數ト同一ノ人員迄ハ被選舉人ノ氏名ヲ其ノ投票用紙中に聯記スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ其ノ選擇ノ順序ニ從ヒ被選舉人ノ氏名ノ上又ハ下ニ(一)(二)(三)等ノ數字ヲ記載スヘシ

前項ノ場合ニ於テ投票效力ハ聯記氏名中ノ一名ニ限ラルコト第二十八條ニ依ル

第三十條 投票用紙ハ一定ノ式ヲ用井選舉ノ當日投票所ニ於テ之ヲ選舉人

ニ交付ス
選舉人ハ投票用紙ニ自己ノ氏名ヲ記載スヘカラス

投票用紙ニハ第二十九條ニ依リ記載スヘキ事項ノ外他ノ事項ヲ記載スヘカラス

選舉人自ラ被選舉人ノ氏名ヲ書スルコト能ハサルトキハ投票スルコトヲ得ス

第三十一條 選舉人ニ於テ聯記被選舉人氏名ノ上又ハ下ニ(一)(二)(三)等ノ選擇番號ヲ記載セサルトキハ選舉長ハ氏名聯記ノ順位ヲ以テ選擇ノ順次ト看做スヘシ

第五章 投票所及投票所取締

第二十二條 投票所ハ市區役所町村役場又ハ投票管理者ノ指定シタル場所ニ之ヲ設ク

第三十三條 投票管理者ハ投票ノ期日ヨリ少クトモ五日以前ニ投票所ヲ其ノ投票區内ニ告示スヘシ

第三十四條 投票管理者ハ其ノ投票區内ノ選舉人中ヨリ二名以上五名以下ノ投票立會人ヲ選任シ選舉ノ期日ヨリ少クトモ五日前ニ之ヲ本人ニ通知シ選舉ノ當日投票所ニ參會セシムヘシ

投票立會人ハ正當ノ事故ナクシテ其ノ職ヲ辭スルコトヲ得ス

第三十五條 投票所ハ午前七時ニ開キ午後六時ニ閉ツ

第三十六條 選舉人ハ選舉ノ當日自ラ投票所ニ到リ選舉人名簿ノ對照ヲ經テ投票簿ニ捺印シ投票スヘシ

第三十七條 選舉人名簿ニ登錄セラレサル者又ハ選舉人名簿ニ登錄セラレタルモ選舉權ヲ有セサル者ハ投票ヲ爲スコトヲ得ス

選舉人名簿ニ登錄セラレタルヘキ確定判決書ヲ所持シ選舉ノ當日投票所ニ到ル者アルトキハ投票管理者ハ之ヲシテ投票セシメ其ノ由ヲ投票錄ニ記載スヘシ

第三十八條 投票ノ拒否ハ立會人ノ意見ヲ聽キ投票管理者之ヲ決定スヘシ
第三十九條 投票所ヲ閉ツヘキ時刻ニ至リタルトキハ投票管理者其ノ由ヲ告ケテ投票所ノ入口ヲ鎖シ投票所ニ在ル者ノ投票結了スルヲ待テ投票函ヲ閉鎖スヘシ

投票函閉鎖後ハ投票スルコトヲ得ス

第四十條 投票管理者ハ投票錄ヲ作り投票ニ關スル一切ノ事項ヲ記載シ

投票立會人ト共ニ署名捺印スヘシ

第四十一條 投票管理者ハ一名又ハ數名ノ立會人ト共ニ投票ノ翌日投票函及投票錄ヲ所屬郡市長ニ送致スヘシ但シ東京市京都市大阪市ニ於テハ府

知事ニ送致スヘシ

第四十二條 島嶼其ノ他ノ交通不便ノ地ニシテ前條ノ期日ニ投票函ヲ送致スルコト能ハサル情況アルトキハ選舉長ハ適宜ニ其ノ投票期日ヲ定メ開

票ノ期日迄ニ其ノ投票函及投票錄ヲ送致セシムルコトヲ得

第四十三條 天災其ノ他避クヘカラサル事故ニ因リ投票ヲ行フコトヲ得サルトキ又ハ更ニ行フノ必要アルトキハ投票管理者ハ選舉長ニ其ノ由ヲ届出ヘシ此ノ場合ニ於テハ選舉長ハ期日ヲ定メ更ニ投票ヲ行ハシムヘシ但シ其ノ期日ハ少クトモ五日前ニ投票區内ニ告示セシムヘシ

第四十四條 投票管理者ハ投票所ノ秩序ヲ保持シ必要ナル場合ニ於テハ警察官吏ノ處分ニ付スルコトヲ得

第四十五條 選舉人ニ非サル者ハ投票所ニ入ルコトヲ得ス但シ投票所ノ事務ニ從事スル者、投票所ヲ監視スル職權ヲ有スル者及警察官吏ハ此ノ限ニ在ラス

第四十六條 投票所ノ秩序ヲ紊ル者アルトキハ投票管理者ハ之ヲ制止シ命ニ從ハサルトキハ之ヲ投票所外ニ退出セシムヘシ

前項ニ依リ投票所外ニ退出セシメラレタル者ハ最後ニ至リ投票ヲ爲ストヲ得此ノ場合ニ於テハ投票管理者ハ其ノ氏名及事由ヲ投票錄ニ記載スヘシ

第六章 投票函及投票錄受渡

第四十七條 郡市長ハ其ノ郡市選舉人中ヨリ五名以上十名以下ノ立會人ヲ選任シ投票函及投票錄ノ受渡ニ立會ハシムヘシ

立會人ハ正當ノ事故ナクシテ其ノ職ヲ辭スルコトヲ得ス

前項受渡ヲ終了シタル投票函及投票錄ハ郡市長ニ於テ之ヲ保管スヘシ

第四十八條 郡市長ハ三名以上七名以下ノ受渡立會人ト共ニ選舉會ノ前日迄ニ前條ノ投票函及投票錄ヲ選舉長ニ送致スヘシ

第四十九條 投票函及投票錄ノ保管又ハ送致ニ付必要ナル場合ニ於テハ郡市長ハ警察官吏ノ保護ヲ求ムルコトヲ得

第七章 選舉會

第五十條 選舉會ハ地方廳又ハ選舉長ノ指定シタル場所ニ於テ之ヲ開會ノ當日選舉會ニ參會セシムヘシ

第五十一條 選舉長ハ其ノ管内選舉人中ヨリ七名乃至十五名ノ選舉立會人ヲ選任シ選舉會開會ノ期日ヨリ少クトモ五日前ニ之ヲ本人ニ通知シ選舉會ノ當日選舉會ニ參會セシムヘシ

選舉立會人ハ正當ノ事故ナクシテ其ノ職ヲ辭スルコトヲ得ス

第五十二條 選舉會ハ投票函ノ總テ到達シタル翌日ヲ以テ之ヲ開會シ七日以内ニ選舉事務ヲ終了スヘシ

第五十三條 選舉長ハ選舉立會人立會ノ上投票函ヲ開キ投票總數ト投票人ノ總數トヲ計算スヘシ

若投票ノ總數ト投票人ノ總數トニ差異アルトキハ其ノ由ヲ投票錄ニ記載スヘシ

前項ノ計算終リタルトキハ選舉長ハ選舉立會人ト共ニ投票ヲ點檢スヘ

投票ノ效力ニ付疑義アルトキハ選舉立會人ノ意見ヲ聽キ選舉長直ニ之ヲ決定スヘシ

第五十四條 成規ノ投票用紙ヲ用井サル投票ハ無效トス
單記ノ投票ニ於テ其ノ被選舉人ノ氏名ノ何人タルヲ確認シ難キトキハ該投票ヲ無效トス

聯記ノ投票ニ於テ聯記氏名中其ノ何人タルヲ確認シ得ヘキモノアルトキハ該氏名ハ之ヲ記載セサルモノトス

第五十五條 選舉長ハ選舉區内ノ議員定數ニ依リテ有效投票總數ヲ除シ其ノ商ヲ以テ當選票數ト定ムヘシ但シ商ノ分數ハ之ヲ廢棄ス

第五十六條 被選舉人中其ノ得票ノ當選票數ニ達シタル者ヲ以テ當選人トス

第五十七條 投票ノ計算ハ左ノ方法ニ依ル

一 各被選舉人ノ得タル投票中其ノ氏名ノ第一番ニ記載アルモノヲ以テ該被選舉人ノ第一選得票トス

二 被選舉人ノ得タル單記投票ハ之ヲ其ノ第一選得票ニ合算ス

三 聯記投票用紙中(一)(二)(三)等選擇番號ノ記載ナキモノノ計算ハ本法第三十一條ノ例ニ依ル

四 第一選得票ノ當選票數ニ達シタル者ヲ以テ當選人トス

五 當選人議員定數ニ達セサル場合ニ於テハ選舉長ハ投票ノ轉移ニ依リ補充當選人ヲ定ムヘシ

六 投票ノ轉移ハ當選人ノ得タル當選票數以上ノ過剩投票又ハ不當選者得票ヲ以テ之ヲ行フモノトス但シ不當選者ヲ定ムルハ次號ノ例ニヨル

七 議員定數以上ノ議員候補者アリタル場合ニ於テ該候補者中第一選得票ノ最少數ナル者ヲ不當選者ト定ムヘシ

八 不當選者得票ノ轉移ハ當選人過剩投票ノ轉移ニ依リ議員定數ヲ得ルコト能ハサル場合ニ於テ之ヲ行フヘシ

九 當選人ノ過剩投票ハ之ヲ其ノ次位ニ記載アル被選舉人ニ轉移讓與シト定ム

十 轉讓票數ト第一選得票ト合算シ當選票數ヲ得タル者ヲ以テ當選人ト定ム

十一 過剩投票ノ次位ニ記載アル者既ニ其ノ第一選得票ニ依リテ當選セル場合ニ於テハ第三位者ニ對シ轉移讓與ノ手續ヲ施スヘシ

第三位者既ニ其ノ第一選得票ニ依リテ當選セ者ニ對シ轉移讓與ノ手續ヲ施スヘシ第五位者以下總テ之ニ做フ

十二 前數號ノ手續ヲ施シ仍議員定數ニ達セサルトキハ選舉長ハ更ニ第

七號不當選者ノ得票ヲ轉移讓與シ當選人ヲ定ムヘシ
不當選人得票轉移讓與ノ手續ハ當選人過剩得票取扱ノ例ニ依ル

十四 第一選得票ニ依リテ當選スヘキ者アラサル場合ニ於テハ選舉長ハ例ニ依リテ更ニ不當選者ヲ定メ其ノ得票ノ轉移讓與ヲ行フヘシ

十五 當初ヨリ不當選者得票轉移讓與ノ手續ヲ施スヘシ
第五十八條 選舉長ハ投票及投票錄ヲ議員ノ任期間保存スヘシ

第五十九條 選舉長ハ選舉錄ヲ作リ投票ノ計算並選舉會ニ關スル一切ノ事項ヲ記載シ選舉會立會人ト共ニ署名捺印シ議員ノ任期間之ヲ保存スヘシ

第六十條 選舉人ハ選舉會ニ參觀ヲ求ルコトヲ得

第六十一條 選舉會場ノ取締ニ付テハ第四十四條第四十五條第四十六條ノ例ニ依ル

第八章 當選人

第六十二條 選舉長ハ選舉會開會ノ日ヨリ十日以内ニ各當選人ニ當選證書ヲ付與シ其ノ氏名ヲ選舉區内ニ告示シ且之ヲ内務大臣ニ報告スヘシ

第六十三條 當選人當選證書ヲ付與セラレタルトキハ其ノ當選ヲ承諾スルヤ否ヲ選舉長ニ届出ヘシ

一人ニシテ數選舉區ノ當選ヲ承諾スルコトヲ得ス

第六十四條 當選人當選證書付與前ニ死亡シタルトキ又ハ被選舉權ヲ有セサルトキ又ハ本法ニ依リ處罰セラレタル爲當選無効トナリタルトキハ第

五十七條ニ依リ更ニ補充當選人ヲ定ム

第六十五條 當選人當選證書ヲ付與セラレタル日ヨリ二十日以内ニ當選承諾ノ届出ヲ爲ササルトキハ其ノ當選ヲ辭シタルモノト看做ス

第六十六條 當選人ナキトキハ地方長官ハ選舉ノ期日ヲ定メ之ヲ管内ニ告示シ更ニ選舉ヲ行フヘシ

第七十一條ノ出訴アリタルトキハ其ノ裁判確定スルニ至ル迄本條ノ選舉ヲ付與シタル後本法ニ依リ處罰セラレタル爲當選無効トナリタルトキハ

第六十七條 當選訴訟ノ判決ニ依リ當選無効トナリタルトキ又ハ當選證書ヲ行フコトヲ得ス

第六十八條 議員ノ任期ハ總選舉ノ期日ヨリ四箇年トス但シ議會開會中ニ

任期終ルモ閉會ニ至ル迄在任スルモノトス

第九章 議員ノ任期及補闕選舉

第六十九條 當選訴訟ノ判決ニ依リ當選無効トナリタルトキ又ハ選舉ノ日

ヨリ一箇年以内ニ議員ノ闕員ヲ生シタルトキハ第六十四條ノ例ニ依り之ヲ補充ス

前項ノ場合ニ於テ補充スヘキ者ナキトキ並選舉ノ日ヨリ一箇年以後ニ於テ議員ノ闕員ヲ生シタルトキハ地方長官ハ内務大臣ノ命ニ依リ其ノ命ヲ受ケタル日ヨリ二十日以内ニ臨時補闕選舉ヲ行フヘシ
前項臨時補闕選舉ノ期日ハ地方長官豫メ之ヲ管内ニ告示スヘシ

第七十條 補闕議員ノ任期ハ前議員ノ任期ニ依ル

第十章 當選訴訟

第七十一條 各選舉區ニ於テ當選ヲ失ヒタル者ハ選舉長又ハ當選人ヲ被告出訴期限ハ第六十二條ノ氏名告示ノ日ヨリ三十日以内トス
確定判決ノ結果ニ依リ必要アルトキハ選舉長ハ更ニ當選人ヲ定ムヘシ
第七十二條 原告人ハ訴狀ヲ提出スルト同時ニ保證金トシテ百圓又ハ之ニ相當スル額面ノ公債證書ヲ供託スヘシ
第七十三條 原告人敗訴ノ場合ニ於テ裁判確定ノ日ヨリ七日以内ニ裁判費用ヲ完納セサルトキハ保證金ヲ以テ之ニ充當シ仍足ラサルトキハ之ヲ追徴ス

第十一章 罰則

第七十四條 選舉資格ニ必要ナル事項ヲ詐稱シ選舉人名簿ニ登録セラレタル者ハ十圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第七十五條 選舉ノ前後ヲ問ハス左ノ各號ニ該當スル所爲アル者ハ三年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處シ百圓以上五百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

一 選舉ニ關シ直接又ハ間接ニ金錢、物品、手形其ノ他ノ利益若ハ公私ノ職務ヲ選舉人又ハ選舉運動者ニ供與シ又ハ供與セムコトヲ申込ミタル者又ハ供與若ハ申込ヲ承諾セムコトヲ周旋勸誘シタル者竝供與ヲ受ケ若ハ申込ヲ承諾シタル者

二 選舉ニ關シ酒食、遊覽等其ノ方法及名義ノ何タルヲ問ハス人ヲ饗應接待シ又ハ饗應接待ヲ受ケタル者又ハ投票所若ハ選舉會場ニ往復スル爲船車馬ノ類ヲ供給シ及其ノ供給ヲ受ケタル者又ハ旅費若ハ休泊料ノ類ヲ代辦シ及其ノ代辦ヲ受ケタル者並此等ノ約束ヲ爲シ又ハ約束ヲ受ケタル者

三 選舉ニ關シ選舉人又ハ其ノ關係アル社寺、學校、會社、組合、市町村等ニ對スル用水、小作、債權、寄附其ノ他利害ノ關係ヲ利用シ選舉人ヲ誘導シタル者及其ノ誘導ニ應シタル者

前項ノ場合ニ於テ其ノ收受シタル物件ハ之ヲ沒收シ既ニ費用シタルモノハ其ノ價ヲ追徴シ

第七十六條 左ノ各號ニ該當スル者ハ二月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

一 選舉ニ關シ選舉人ニ暴行脅迫ヲ加ヘ若ハ之ヲ掲引シタル者

二 選舉人ニ對シ往來ノ便ヲ妨ケ又ハ詐偽ノ手段ヲ以テ選舉權ノ行使ヲ妨害シタル者

三 選舉ニ關シ選舉人又ハ其ノ關係アル社寺、學校、會社、組合、市町村等ニ對スル用水、小作、債權其ノ他利害ノ關係ヲ利用シ選舉人ヲ威逼シタル者

第七十七條 投票管理者、選舉長、立會人、選舉監視者等ニ暴行ヲ加ヘ又ハ投票所若ハ選舉會場ヲ騒擾シ又ハ投票、投票函其ノ他關係書類ヲ抑留、毀壞、奪取シタル者ハ四月以上四年以下ノ輕禁錮ニ處ス

第七十八條 選舉人、議員候補者若ハ選舉運動者ヲ脅迫シ又ハ投票所若ハ投票、投票函其ノ他ノ關係書類ヲ抑留、毀壞、奪取スル目的ヲ以テ多衆ヲ嘯聚シタル者ハ六月以上三年以下ノ輕禁錮ニ處ス其ノ情ヲ知テ嘯聚ニ應シ勢ヲ助ケタル者ハ十五日以上三月以下ノ輕禁錮ニ處ス

第七十九條 犯罪者第七十九條ノ物件ヲ携帶シタルトキハ各本刑ニ一等ヲ加フ
選舉人、議員候補者及選舉運動者ニシテ選舉ニ關シ銃砲、槍械、刀劍、竹槍、棍棒其ノ他人ヲ殺傷スルニ足ルヘキ物件ヲ携帶シタル者ハ十一日以上二年以下ノ輕禁錮又ハ五圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス
警察官吏又ハ憲兵ハ必要ト認ムル場合ニ於テ前項ノ物件ヲ抑留スルコトヲ得

第八十條 前條記載ノ物件ヲ携帶シテ投票所若ハ選舉會場ニ入リタル者ハ前條ノ例ニ依リ一等ヲ加フ

第八十一條 選舉ニ關シ氣勢ヲ張ルノ目的ヲ以テ多衆集合シ若ハ隊伍ヲ組ミテ往來シ又ハ煙火、篝火、松明ノ類ヲ用ヰ若ハ鐘鼓、法螺、喇叭ノ類ヲ鳴ラシ旗幟其ノ他ノ標章ヲ用ウル等ノ所爲ヲ爲シ警察官吏ノ制止ヲ受クルモ仍其ノ命ニ從ハサル者ハ十一日以上三月以下ノ輕禁錮ニ處シ又ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第八十二條 第七十六條乃至第八十條ノ所爲ヲ爲サシムルノ目的ヲ以テ演說又ハ新聞紙、雜誌、引札、張札其ノ他何等ノ方法ヲ以テスルニ拘ラス人ヲ教唆シタル者ハ其ノ各條ニ依リ處斷ス但シ新聞紙、雜誌ニ在リテハ仍其ノ署名シタル編輯人ヲ處斷ス

第八十三條 選舉ヲ妨クルノ目的ヲ以テ演說又ハ新聞紙、雜誌、引札、張札其他何等ノ方法ヲ以テスルニ拘ラス議員候補者ニ關シ虛偽ノ事項ヲ公ニシタル者ハ十一日以上六月以下ノ輕禁錮ニ處シ二圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

新聞紙、雜誌ニ在リテハ前條但書ノ例ニ依ル

第八十四條 選舉人タルコトヲ得サル者ニシテ投票ヲ爲シタル者及氏名ヲ詐稱シテ投票ヲ爲シタル者ハ一日以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第八十五條 立會人正當ノ事故ナクシテ本法ニ定メタル義務ヲ闕クトキハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第八十六條 第七十八條第二項第七十九條第八十條ノ罪ヲ犯シタル場合ニ於テハ其ノ携帶シタル物件ヲ沒收ス

第八十七條 當選人本法ニ依リ處罰セラレタルトキハ其ノ當選ヲ無効トス一本法ニ依リ刑ニ處セラレタル者ノ投票ハ無効トス但シ投票當日後ノ行爲ニ付處刑セラレタル者ノ投票ハ此限ニ在ラス

第八十八條 本法ニ依リ刑ニ處セラレタル者ハ裁判所ノ宣告ヲ以テ刑期後尚二年以上八年以下選舉人及被選舉人タルコトヲ禁ス

第八十九條 本法ニ依リ處罰スヘキ犯罪ハ六箇月ヲ以テ时效ニ罹ル

第十二章 附則

第九十條 選舉ニ關スル費用ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第九十一條 選舉ニ關スル訴訟ニ付テハ裁判所ハ他ノ順序ニ拘ラス速ニ其ノ裁判ヲ爲スヘン

第九十二條 町村制ヲ施行セサル地ニ於テハ本法ニ規定シタル町村長ノ職務ハ戸長又ハ之ニ準スヘキ者之ヲ掌ル

第九十三條 立會人指定ノ時刻ニ至リ參會セサルトキ又ハ參會シタルモ中途ヨリ定數ヲ闕キタルトキハ投票管理者、郡市長、選舉長ハ臨時ニ選舉人ノ中ヨリ立會人ヲ選任スヘン

第九十四條 選舉ニ關スル訴訟ニ付テハ本法ニ規定シタルモノヲ除ク外總務ハ戸長又ハ之ニ準スヘキ者之ヲ掌ル

第九十五条 本法ニ依リ初テ議員ヲ選舉スルニ付必要ナル選舉人名簿ノ調製ニ限り第十七條第十九條第二十三條第二十五條ノ期日及期間ハ勅令ヲ以テ別ニ之ヲ定ムルコトヲ得但シ其ノ選舉人名簿ハ次年ノ選舉人名簿確定ノ日迄其ノ效力ヲ有ス

第九十六条 本法ハ次ノ總選舉ヨリ之ヲ施行ス
第九十七条 本法施行ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
(別表)

東京府	十九人
大阪府	十五人
兵庫縣	十七人
新潟縣	八人
群馬縣	十一人

京都府	十人
神奈川縣	九人
長崎縣	八人
埼玉縣	十二人
栃木縣	八人

奈良縣	三重縣	滋賀縣	長野縣	山梨縣	岐阜縣	富山縣	福井縣	山形縣	秋田縣	石川縣	富山縣	鳥取縣	島根縣	山口縣	德島縣	愛媛縣	高知縣	香川縣	和歌山縣	熊本縣	大分縣	鹿兒島縣	沖繩縣	合計
五十六人	五十五人	五十四人	五十八人																					
十一人																								
十八人																								
八人																								

(根本正君演壇ニ登ル)
○根本正君(四十四番) 議長閣下、名譽アル諸君、本員ハ衆議院議員選舉法改正案ヲ提出致シマシタ、此法案ハ帝國議會開會以來最モ重大ナル法案デアリマスル故ニ、本員ガ提出スルマデニモ慎重ニ慎重ヲ重ネテ茲ニ提出致シマシタ譯デアリマスカラシテ、其理由ヲ御話シタイト思ヒマス、唯今行レテ居ル所ノ衆議院議員選舉法ト云フモノヲ、改正スペキ點ト云フモノハ少カラザルモノアリマス、第一其法ノ最大缺點ト云フモノハ、選舉權及被選舉權ノ誠ニ狄イト云フ譯デアリマス、ソレ故ニ本員ハ此選舉權ノ擴張即チ被選舉權ノ擴張ニアリマス、政府案及田口君カラモ出サレマシタ改定案ガアリマスルガ、選舉權ノ方ハ二十歳以上即チ丁年ニナリマスルト云フト選舉權アル譯ニナツテ居ル、然ルニ被選舉權ノ方ハ矢張從前ノ通三十歳トナツテ居リマス、第一此點ガ兩案共ニ選舉權ヲ擴張スルト云フ第一ノ意ニ反シテ居ルモノデアリマス(ヒヤウ)ト呼フ者アリ)即チ選ブ方ガ五ツ減クタナラバ、選レル方モ五ツ減ラナケレバナラヌノデアル、故ニ本員ハ被選舉ニナル人ハ二十五歳ヨリ、即チ帝國議會ノ議員タルコトヲ許ス法案デアリマス、何レノ國デモ選舉人ト被選舉人ガ十違タ國ハナイ、佛蘭西モ丁年ヨリ一即チ選舉サレル者ハ二十五トナツテ居ル、亞米利加モ其通デアル、若シモ選舉人ガ二十五歳デアルナラバ、三十歳ト云フヤウナ按排ニ、英吉利通デ宜シ

イケレドモ、日本ノ改正案ト云フモノハ、實ニトンチンカンナ案デアリマス、故ニ此被選舉權ヲ第一ニ擴張スルト云フコトニ附イテ、政府案又其次ニ出サレマシタル案、兩案共ニ反對デアリマス、又此稅ヲ納ムルコトニ附キマシテモ、十圓ヨリ五圓ト云フモノハ宜シイ又田口君カラ出サレタ所ノ案ハ十五圓トアツタノヲ十圓ト云フダケデアリマスカラ、是モ本員ハ五圓ト一般ニ切下ダタノデアリマス、實ニ此選舉權ヲ擴張スルト云フコトニ附キマシテ、種々理由モアリマスルガ、第一ニ此選舉人、被選舉人ト云フ所ノ年齢ヲ改ムルコトデアリマス、其次ニハ選舉區ノ擴張デアリマス、今日ノ如キ選舉區ト云フモノガ小サイ譯デアリマシタナラバ、實ニ帝國議會ノ議員タル者ヲ選ブニ不都合ナ譯デアリマス、例ヘバ小選舉區ニシテ置キマスルト云フト、千人デ一人ヲ選ブト云フトキニナリマスト、即チ僅カ三百人ノ選舉人デ以テ後トノ七百人ヲ無視スル場合ガアリマス、ワレハ御承知ノ通茲ニ政黨ガ三ツアリマシタナラバ、一ノ政黨ガ三百人取ツテシマッテ、後トノ七百人ト云フモノハ即チ二百人宛三ツ、或ハ四ツニナッテ、散ラカツテシマッタメニ、僅カ國家ヲ代表スルノ議員ト云フモノハ、三分ノ一ノ選舉權ヲ以テ國家ヲ代表スルヤウ譯ニナリマス、ソレ故ニ此小選舉區ト云フモノハ宜シクナイ、即チ大選舉區ニナラナケレバナラヌト云フ譯デアリマス、ソレ等ノ理由ニ附キマシテハ詳シク此理由書ニ書イテアリマスガ、併ナガラ私ガ殊更ニ茲ニ研究ニ研究ヲ重ネテ此法案ヲ出シマシタト云フモノハ、即チ投票計算法ノ完全ヲ得ルト云フ所デ、即チ近來文明國ニ行レテ、居ル所ノ公平選舉法ヲ以テ土臺トシタ譯デアリマス、即チ此公平選舉法ト云フモノハ、一名有效投票法ト申ス譯デアリマス、即チ「エツフエクトーヴ、ブオーティング」ト申シマス、又一名ハ割前投票法ト申シ「プロボルショナル、レブレセンテチープ」ト申シマス、斯ノ如ク公平選舉法ト云フモノハ、是マデノ選舉法ヲ調ベ々々、此世界デ粹ヲ取リ絆ヲ取ツタ其上出來マシタ所ノ法案デアリマシテ、實ニ此右ニ出ヅル法案前投票法ト申シ「プロボルショナル、レブレセンテチープ」ト申シマス、斯ノ如ク公平選舉法ト云フモノハ、是マデノ選舉法ヲ調ベ々々、此世界デ粹ヲ取リ絆ヲ取ツタ其上出來ル、又大政黨ノ人ハ大政黨ノ割合ニ即チ割前ヲ以テ多タ云フモノハナイト云フコトヲ自信致シテ居ル譯デゴザイマス、是デ見マスト云ブ法ト云フモノハ、第一ニ選舉區ヲ大キクシテ獨立ノ、タツタ一人デ出ル人モ自由ニ出ルコトガ出來ル、又大政黨ノ人ハ大政黨ノ割合ニ即チ割前ヲ以テ多タ出ルコトガ出來ル、小黨ノ人ハ小黨ダケノ矢張小人數ガ出ルト云フ所ノ名案デアリマス、故ニ決シテ一個人デアルカラ出ラレナイト云フヤウナ譯デナク——是マデノヤウナ譯デアリマスト、大政黨ノミデ小黨ノ人或ハ獨立ノ議員ハ、出ルコトガ出來ル、小黨ダケノ矢張小人數ガ出ルト云フ所ノ名案デアリマス、是モ今日マデノ有様ニシテ見マスナラバ、此東京ノ十五區ニ於テ或ル主義ヲ採ツテ居ル所ノ、即チ道路改良ト云フモノガアツテ——アルケレモ僅ニ一區カラ千人宛デアルト云フコトニナレバ、其一區デ投票ヲ纏メルコトガ出來ヌ、然ルニ此選舉法ニ依リマスナラバ、十五區カラ千人宛集メマ

スト云フト即チ一万五千人ニナル、一万五千ノ投票ヲ得レバ、即チ此代表ヲ一人選ムト云フコトガ出來ル譯デアリマス、故ニ何レノ種類デモソレダケノ勢力ガアレバ、見殺シニスルト云フヤウナコトハナイ、ドコマデモ其權利ヲ擴張シテ其意見ヲ國家ニ代表シ、國ヲ利益スル所ノ議員ヲ出スト云フコトガ出来ル譯デアリマス、ソレデ此投票ノ方法ヲ極端シテ申シテ見マスレバ、即チ大選舉區ヲ主トシテ居ルトアリマス、故ニ此東京府デアリマシテ十人議員ヲ選ムニ附イテ、一万票ノ投票ト云フモノガ此處ヘ出テ來マス、シテ見マスルト之ヲ十二割リマスト云フト、一代議士千票ヲ得ル譯デアリマス故ニ、千票サヘ取レバ麹町區デモ取り、或ハ本所區デモ取り、品川デモ、千住デモ、何處デアツテモ唯千票サヘ取レバ、今日其任ニ當ルト云フ譯デアリマス、故ニ千票ヲ以テ當選人ト爲ルコトガ出來ル、併ナガラ茲ニ極名望家ガアリマシテモ役ヲスルト云フ所ノ實ニ名案デアリマス、投票シマスルトキニハ即チ連記ルト云フ譯デアリマス、其次ノ人ニヤルト云フノハドウ云フ譯デアルカト云ヘバ、即チ私ノ此法案ノ投票ト云フモノハ、即チ連記ノ御方ニモ單記ノ御方ニモ役ヲスルト云フ所ノ實ニ名案デアリマス、投票シマスルトキニハ即チ連記ルト云フ譯デアリマス、故ニ東京カラ十人選ムナラバ十人マデハ其投票用紙ヘ書イテ宣シ、又五人書イテモ宜シイ、ソレハ其人ノ望デアルケレドモ、先づ其議員ノ定數即チ十人マデハ書イテ宜シキデアルカラ、其十人マデ第一ニ自分ノ好ム所ノ人ヲ書イテ、第二ニ誰ト云フヤウニ書イテ投票ヲシマスル、其投票ヲシマシタ所ノ第一番ノ人ガ其投票ノ權利ヲ取ツテ居リマスルケレドモ、其人ガ先刻御話シタ通千票得マシテ、百票餘リマスレバ、其百票ノモノハ次點ノ方ニ回ス、即チ次筆者ノ方ヘ回ス譯デアリマス、故ニ此投票法ト云フモノハ即チ有效投票法デアリマス、又極不人望ナ例ヘバ茲ニ千票取ルベキ人ガ、僅ニ百票カ取ラナイ人ガアリマス、サウニ云フ風ニ上カラハ引下ゲ、又下カラモ上ヘ繰上ゲルノデ、此百票取ツタ人ハ必ず是ハ落第スル人デアリマスカラ、此百票ト云フモノハ上ヘ持ツテ來ル、其他得票少數ノ人ハ無論落第デアリマスカラ、二番目ニ在ル人ガ九百票取ツテ居ルナラバ、ソコヘ持ツテ來テ、二ツトカ三ツトカ入レルト云フヤウナ排列ニ、下ノ落點者モ繰上げテ此總數議員ニ満ツルマデ、早ク申サバ調合スル譯デアリマス、斯ノ如ク致シマスレバ、即チ候補者ハ落第スル人ガ澤山アリマセウ、十八ノ所ニ候補者ガ十五人アレバ必ズ五人ハ落第スル、然レドモ選舉人自ラハ必ず落第ハシナイ、選舉人自ラハ即チ第一ノ人ハ落第シテモ第二ノ方ヲ以テ往クト云フ譯デアルカラ、候補者ハ落第スルケレドモ選舉人自ラハ國家ニ對シテ意見ヲ發表スル所ノ折ガアル譯デアリマス、ソレ故ニ此選舉法ニ附キマシテハ即チ有效投票法——投票ヲ無駄ニシナイト云フ所ノ意味デアリマス、而シテ成ル程必シモ投票ヲ無駄ニシナイト云フ譯ニハ出來ナイ、或ハ字ノ書違誤ハ何レノ場合ニモアル、其他ニモアル、例ヘバ或ル黨ガ選舉サレテ或ル黨ノ選舉

サヘナイトキニハ、ドチラニモ即チ融通ノ附ケ所ノナイモノハ、是ハ無效ニナリマスケレドモ、比較的多數ノ投票ヲ得タ所ノ人ガ選舉ヲサレル譯デアリマスカラシテ、無駄ニナル投票ト云フモノハ先づ少イ——無駄ニシナイ、國家人民タルモノハ此手順ヲ以テ、即チ我意見ヲ國家ニ代表スルト云フ手順ヲ全ウセンガタメニ其事が又出來ル譯デアリマス、故ニ之ヲ公平選舉法ト申ス譯デアリマス、又此法ハ即チ大選區ナルガ故ニ、今日政府ガ提出シタ所ノヤウナモノ、譯ニハイキマセヌデス、即チ市ノ人民モ郡ノ人民モ其一選舉區ニ居ル所ノ人民ハ皆同シ所ノ權利ヲ持ツ譯デアリマス、尤モ此選舉法ニ取ツテ今日諸君ト共ニ意ヲ決シテ掛ルベキ所ハ、此權利問題デアリマスガ故ニ、本員ハ此政府提出ノ案ニ最モ反對スル所ハ、此市ノ人民ニ多クノ權利ヲ與ヘ、郡ノ人民ニハ少キ權利ヲ與ヘルト云フ所ハ、實ニ立憲政體ニ許スベカラザル所ノ法案デアリマス、ナゼナラバ此帝國議會即チ議院タルモノハ、市ノ代表者デモナケレバ郡ノ代表者デモナイ、即チ帝國人民ノ代表者デアル、然ルニ市カラハドウ云フ譯デアルカト申セバ、僅ニ二万二千二百餘人デ、一人ノ代議士ヲ出スヤウナ譯ニ此法案ガ出來テ居リマス、郡ハ如何デアルカト申セバ、熊本縣ノ如キハ、十七万九千六百人デ僅ニ一人ホカ出サナイ所ノモノニナシテ居リ、斯ノ如キ不公平極ツテ居ル所ノモノヲ以テ、實ニ國家此上モナキ所ノ法案ヲ此儘ニ通過シタナラバ、實ニ我國ヲシテ如何ナル有様ニ陷ラシムルカト云フ所ノ、危險千萬ナル結果ヲ見ルト云フコトハ、本員ハ疑ハズ信シテ居リマスル、故ニ諸君、外ノ事ハ免モ角モ、小生ガ提出シタ所ノ此公平選舉法ノ割前投票ガ、マダ役人共ガ二二天作ノ五ガムカシイカラ、ソレハ後ニレロト云ウテ、或ハ一年位後レルノハ已ムヲ得ナイケレドモ、此市ノ人民ニ權利ヲ多ク遺ル、郡ノ人民ニハ即チ尾ノ道トカ熊本縣ノ第七區ノ如キ、市ニ比較シテ殆ド八分ノ一ホカ權利ヲ與ヘヌト云フヤウナ道理ハ決シテナイ、故ニ本員ハ之ヲ提出スル譯デアリマス、ソレニ附イテ政府ノ理由書ト云フモノヲ昨年アタリカラ——政府ノ答辯書杯ヲ見マスルト云フト、英吉利ノコトガ斯ウデアル、或ハ其他ノ事が斯ウデアルト云ヒマスルケレドモ、今日選舉法ノ先ヅ完全ナルモノハ英吉利ヨリハ佛蘭西、亞米利加、澳地利デアリマス、決シテ此英吉利ノ選舉法ト云フモノハ完全デハナイ、此法案ヲ見マスルト云フト極昔ノ所ノモノヲ拾ヒ集メタモノデアラテ、新シイ所ノ此二十世紀ニ入ラントスルニモ拘ラズ、文明ノ主義ニ違ツテ居ル所ノモノヲ土臺トシテ作ラレタル法案デアルト信ズル、諸君ト能ク研究シナケレバナラヌ所ハ、政府ハ英吉利ハスウデアルドウデアルト云フケレドモ、成ル程英吉利ノ認ムル所ハサウデアル、英吉利ト雖モ英吉利ヨリハ佛蘭西、亞米利加、澳地利デアリマス、此法案アアルト信ズル、諸君ト能ク研究シナケレバナラヌ所ハ、政府ハ英吉利ハスウデアルドウデアルト云フケレドモ、成ル程英吉利ノ認ムル所ハサウテ居ルカト云ヘバ、本員ノ提出スル公平選舉法ガ行レテ、既ニ昨年八月而モ其法案が通過シテ今日ソレヲ以テ選舉スル有様デアル、英吉利ノ其本國ニハ行レズトモ其殖民地ニハ今日行レテ居ルノデアル、何ガ故ニ英吉利デハ行レ

ナイデ植民地ニ行レテ居ルカ、是ハ能ク諸君ガ御承知ノ通、英吉利ト云フ國ハ、全ク商工業ヲ以テ成フテ居ル所ノ國デアリマス、故ニアノ英吉利ノモノヲ其儘ニ我帝國ニ於テ採ルト云フコトハ、實ニ世間知ラズト云フ譯デアリマス、其事ヲ茲ニチヨツト例ヲ舉ゲマスレバ、此英吉利デハ郡ノ人口ト云フモノハ三百八十五万三千二百二十九人デアル、此議員ガ三百七十七人、一議員ニ附イテ此選舉ヲシタ人ガ一万二百三十一人デアル、又市ノ方ハドウデアルカト云ヘバ、其方ノ選舉人ハ二百五十六万七千二百五十八人デアル、市ノ議員ハ二百八十四人デアル、一人ニ附イテ九千四十人デアル、政府委員杯ガ豫テ云フ通、英吉利デハ市ガ獨立シテ殆ド郡ニ匹敵スル所ノ議員ガ出テ居ルト云フコトヲ云ハレルガ、成ル程其通デアル、唯今申上げタ通三百七十七人ニ二百八十四人デアルカラ、匹敵シタモノニ相違ナイ、併シ日本ノ市ト郡ト又英吉利ノ市ト郡トノ差ハ達ツテ居ル、即チ英吉利ノ國ハ殘ラズ町デアル、町デアルカラ町ノモノガ出ルノハ當リ前ナ話、別段市ト云ウテ市カラ出スト云フ譯デナイ、其比較ニ在ル何セサウ云フ譯デアルカト云ヘバ、英吉利ハ英吉利ノ國ヨリ大ナル植民地ガ幾ツアルカト申セバ六十六程アル、英吉利ノ英蘭、蘇格蘭、愛蘭ヲ合セタヨリ大キナ植民地ガ六十六アル、故ニ此英吉利ト云フモノハ丁度日本デ東京ガ日本ノ町ニ於ケルガ如ク、英國全體ガ町デアル、故ニ英吉利ノ國ガ斯ウデアルカラ日本モ斯ウセネバナラヌハト云フコトハ、實ニ人民ノ權利ヲ以テ如何裁キヲスルカト云フマデニ疑フ所ノ甚ダ不都合ナルモノデアル、英吉利ニ於テモ必シモ此市ト云フモノニ、日本デ云フガ如キ市民ニ今政府提出ノ如ク八倍以上ノ權利ヲヤル所ガナイ、實ニ不都合ナモノデアル、唯今御話シタ通英吉利ノ例ヲ見マスルト僅ニ千人ホカ違ハナイ、郡ノ方ハ一万二百餘人、市ハ九千四十人、殆ド此度政府ガ計算サレタ所ノ人間ヲ見マスルト、市カラ舉ル所ノ議員ハ三拾四入レルト云フ算盤ヲ立ツテ居ル、實ニ日本開闢以來ノ斯ノ如キ算盤ヲ立テ、即チ三ヲ拾テ、四ヲ入レル、郡ハドウデアルカト云ヘバ、端シタノ五ヲ拾テ、六ヲ入レルト云フ、分數マデ郡ノ人ヲ輕蔑スル譯ニ至テハ實ニ甚シイモノデアリマス、此立憲政治ノ最モ尊イ美妙ナル所ト云フモノハ、不平均ヨリ平等ニイクノハ當リ前ノコトデアル、此法案ガ十年以前ニ出來タナラバ知ラズ、今日ハ市ハ郡ト並行シテ日本ノ帝國ノ人民タルモノハ残ラズ誰モ彼モ同ジ權利ニセネバナラヌト云フヤウニ、即チ選舉權ヲ擴張セネバナラヌ、所ガ今日ノ有様ヲ見ルト云フト却テ縮小デアル、成ル程或ル一部分ノ商人ハ擴張サレヤウガ、大體日本帝國ノ國是國本トスル所ノ農民ヲシテ、此權利ヲ取去ルト云フモノハ、實ニ此帝國ヲ顧ミザル法案ト私ハ思ヒマス、是ハ實ニ大切ナモノデアリマス、此事ニ附キマシテ或ル人ノ申スコトハ、或ハ市ヲ以テ獨立サセヌケレバナラヌ、成ル程獨立ハ宜シウゴザイマセウ、若シモ宮崎縣トカ山梨縣トカ云フ五十万以上位ナ人口ノ市ヲ獨立スルナラバ、一

利ガ片ミノ人民ハアノ通低イ、二十万以上デ一人、片ミハ十七万九千八百人デ一人出スト此法案杯ニ出テ居ルノヲ見マシテハ、決シテ許スベカラザル所デアリマス、又市カラ僅ニ十七人ホカ出テ居ラヌト云フコトヲ政府委員モ云ヒ、又地方ヨリ出テ居ル所謂運動者杯ガ手紙ヲ寄越シマスガ、是等ハ怪シカラス、成ル程市ト名附ケタ所ヨリハ十七人デアリマセウガ、本員ノ調ベタ所ニ據リマスルト百姓、私ノヤウナ者ト云フモノハ六十五人ホカナイ、商業ハドレダケアルカト云フト、必シモ東京大阪デナイ、實際商ヲシテ居ル銀行頭取トカ何トカ云フ商用ヲスル人ガ八十一人デアル、又無職業ト云タテハチト惡ルイガ、所謂政治家ガ四十六八アル、又新聞記者ノヤウナ者ガ五人アル、辯護士ガ二十四人、公證人ガ一人、役人ガ三人、工業ヲシテ居ル者ガ五人、醫者様ガ三人、又都長上リノヤウナ御方ガ六十七人アル、斯ノ如キ有様デ既ニ今日マデノ平均ト云フモノハ丁度都合好ク出來テ居ル、殊更ニ此市ヲ以テ獨立サセルトカ獨立ノ權利ヲヤルトカ云フコトハ、實ニ何トモ言葉ニ出サキル所ノ有様デアル、若シモ此政府案或ハ田口君ノ案ヲシテ通過セシメマシタナラバ日本ノ憲法ト云フモノハ後ト戻ラサセル譯デアル、之ヲ言ヲ換ヘテ申セバ即チ御維新以前ハ士族ト云フモノガアツテ、平民ハ斬捨御免杯ト云フコトガアツテ、丁度サウ云フヤウナモノデアツテ、昔ノ士族ト同様ナ權利ト云フモノヲ此商人ニ與ヘル譯デアル、成ル程頭カラ斬捨ヲシナイケレドモ、間接直接ニ法律ヲ以テ日本ノ國是國本トスル所ノ農民ヲ斬捨ニスルト云フヤウナ法律デアルト、私ハ確認シテ居ル者デアリマス、又此事ニ附イテ誠ニ疑ツテ居ル所ノモノハ、三年前即チ伊藤内閣ノトキニ、アノ伊藤侯爵ガ所謂此處ニ立ツテ、商工業ヲ發達スルタメニ市ヲ獨立サセル、市ヲ獨立ニ置クト云フコトヲ御演説ニナリ、又今ノ山縣侯爵モ其眞似ヲシテ同ジコトヲ此處ニ繰返シタ、實ニ是等ハ怪シカラヌコトデアル、アノ人杯ハ能ク道理モ分ツテ成程古イ學問デアルテ、時世ニ後レテ居ルカ知ラヌガ、免モ角憲法ヲ作ツタ人ト云フテ宣シイ、憲法ガ出來テカラ七年前デアル——二年前ヲ引去フタナラバ七年前デアル、七年前ニ其コトガ分リマセヌカ、全體此選舉法ト云フモノハ普通選舉ガ一般ノ原則デアル、故ニ擴張ヲシテ殘ラズノ人民ニ權利ヲヤルト云フ所ノ、此憲法ヲ立て時分二十年前ニ此心ガアツタニ相違ナイ、アノ時分ニソレガアツタニ相違ナイ、今日階級ヲ附ケテ特別ニ市ノモノニナル杯ト云フコトハ、實ニ此憲法ヲ作ル即チ腦髓ガアルト假ニ定メテ居ラレタ人ガ、七年前ノ先キノコトガ分リマセヌカ、分ラナイナラバ事理ノ分ラナイ人デアル、ドウゾ諸君、此法案ト云フモノニ附イテハ色ニ事ガアリマスル、英吉利ノ事杯ヲ以テ、英吉利ガ斯ウデアルカラスウデアルト云フヤウナ事ハ、實ニ以テノ外ノコトデアル、英吉利ノ土地所有者ハ僅カ全國民ノ千分ノ五デアリマス、故ニ此農民ノ少ナイト云フコトハ分ツテ居ル、市ガ勢力ヲ有ツト云フコトハ當リ前デアル、詰リソレハ自分ノ屋敷デアツテ自分ノ耕地ト云フモノハ即チ印度デアルトカ濠洲デアルト

カ云フコトデアル、即チ其殖民地ナル印度ノ如キハ七千九百二十万町歩デアリマス、日本ノ田畠ハ僅カ五百万町歩デアル、故ニ英國ノ人口ノ八倍ニ對スルニ據リマスルト百姓、私ノヤウナ者ト云フモノハ六十五人ホカナイ、商業ハドレダケアルカト云フト、必シモ東京大阪デナイ、實際商ヲシテ居ル銀行頭取トカ何トカ云フ商用ヲスル人ガ八十一人デアル、又無職業ト云タテハチト惡ルイガ、所謂政治家ガ四十六八アル、又新聞記者ノヤウナ者ガ五人アル、辯護士ガ二十四人、公證人ガ一人、役人ガ三人、工業ヲシテ居ル者ガ五人、醫者様ガ三人、又都長上リノヤウナ御方ガ六十七人アル、斯ノ如キ有様デ既ニ今日マデノ平均ト云フモノハ丁度都合好ク出來テ居ル、殊更ニ此市ヲ以テ獨立サセルトカ獨立ノ權利ヲヤルトカ云フコトハ、實ニ何トモ言葉ニ出サキル所ノ有様デアル、若シモ此政府案或ハ田口君ノ案ヲシテ通過セシメマシタナラバ日本ノ憲法ト云フモノハ後ト戻ラサセル譯デアル、之ヲ言ヲ換ヘテ申セバ即チ御維新以前ハ士族ト云フモノガアツテ、平民ハ斬捨御免杯ト云フコトガアツテ、丁度サウ云フヤウナモノデアツテ、昔ノ士族ト同様ナ權利ト云フモノヲ此商人ニ與ヘル譯デアル、成ル程頭カラ斬捨ヲシナイケレドモ、間接直接ニ法律ヲ以テ日本ノ國是國本トスル所ノ農民ヲ斬捨ニスルト云フヤウナ法律デアルト、私ハ確認シテ居ル者デアリマス、又此事ニ附イテ誠ニ疑ツテ居ル所ノモノハ、三年前即チ伊藤内閣ノトキニ、アノ伊藤侯爵ガ所謂此處ニ立ツテ、商工業ヲ發達スルタメニ市ヲ獨立サセル、市ヲ獨立ニ置クト云フコトヲ御演説ニナリ、又今ノ山縣侯爵モ其眞似ヲシテ同ジコトヲ此處ニ繰返シタ、實ニ是等ハ怪シカラヌコトデアル、アノ人杯ハ能ク道理モ分ツテ成程古イ學問デアルテ、時世ニ後レテ居ルカ知ラヌガ、免モ角憲法ヲ作ツタ人ト云フテ宣シイ、憲法ガ出來テカラ七年前デアル——二年前ヲ引去フタナラバ七年前デアル、七年前ニ其コトガ分リマセヌカ、全體此選舉法ト云フモノハ普通選舉ガ一般ノ原則デアル、故ニ擴張ヲシテ殘ラズノ人民ニ權利ヲヤルト云フ所ノ、此憲法ヲ立て時分二十年前ニ此心ガアツタニ相違ナイ、アノ時分ニソレガアツタニ相違ナイ、今日階級ヲ附ケテ特別ニ市ノモノニナル杯ト云フコトハ、實ニ此憲法ヲ作ル即チ腦髓ガアルト假ニ定メテ居ラレタ人ガ、七年前ノ先キノコトガ分リマセヌカ、分ラナイナラバ事理ノ分ラナイ人デアル、ドウゾ諸君此事ニ付キマシテ公平選舉法ヲ篤ト御調ニ云フコトハ、容易ナラヌコトデアル、返ス々々モ市民ニ特別ノ權利ヲ許ト本帝國ノ人民ハ如何ナル人民ノ生命デモ、財産モ權利モ皆同ジモノデアルト云フ所ノ御考ヲ以テ、ドウカ諸君此事ニ付キマシテ公平選舉法ヲ篤ト御調ニ云フコトハ、御贊成ヲ願ヒタイノデアリマス、返ス々々モ市民ニ特別ノ權利ヲ許ト本帝國ノ人民ハ如何ナル人民ノ生命デモ、財産モ權利モ皆同ジモノデアルト云フコトハ、後來農ト商トノ間ニ實ニ此國家ヲシテ二ツニ別レルト云フ譯ニナツテ、御贊成ヲ願ヒタイノデアリマス、返ス々々モ市民ニ特別ノ權利ヲ許ト本帝國ノ人民ハ如何ナル人民ノ生命デモ、財産モ權利モ皆同ジモノデアルト云フコトハ、容易ナラヌコトデアル、實ニ是ニ附イテハ色ニ面白イ話ガアル、若シモ今日此議會ニ於テ商ノタメ農ノタメト云フヤウナ脳髓ヲ有ツテ——國會議員タル者ガ國會ニ出タ以上ハ農ニアラウガ商ノタメヲ計ルベキ事ハ計リ商デアツテモ農ノタメヲ計ルベキ事ハ宜シク計リ、即チ帝國議會デ此商ノタメニ建議ヲ出シタ御方杯ハ、則チ農カラ出マシタモノデアルト云フヤウナ譯デアルカラ、決シテ此權利問題ニ附イテ物ノ差別ヲ附ケズ、職掌ニ差別ヲ附ケズ、ドウカ此法案ハ御贊成ヲ願ヒマス、ドウカ既ニ唯今調查シテ居ル所ノ同ジ選

舉法ノ委員ニ御付託ニナルコトヲ希望致シマス

○恆松隆慶君(百四十三番) 本問題ノ法案ハ根本君ガ熱心ニ調査セラレテ、今政府案ヨリハ優タト云フコトデ、如何ニモ公平選舉法ト思ヒマス故ニ、参考ニナラウト思ヒマスカラ、唯今政府案ノ委員ノ方ニ直チニ御付託セラレントヲ希望致シマス

○議長(片岡健吉君) 本案ヲ先キノ衆議院議員選舉法改正法律案ノ委員ニ付託スルト云フ動議デスナ

○恆松隆慶君(百四十三番) サウデゴザイマス

○議長(片岡健吉君) 恒松君ノ動議ニ附イテ御異議アリマセヌカ

〔「異議ナシ異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

○議長(片岡健吉君) 御異議ガナケレバ恒松君ノ動議ノ通ニ致シマス、議事日程ノ第十一鐵道敷設法中改正法律案、第一讀會

第一讀會

第十一 鐵道敷設法中改正法律案(鳩山和夫君外三名提出)

鐵道敷設法中改正法律案

鐵道敷設法中左ノ通改正ス

第二條ヲ左ノ如ク改ム

第一條ノ一 豫定鐵道線路ハ左ノ如シ

中央線

一 東京府下八王子ヨリ山梨縣下甲府長野縣下鹽尻ヲ經テ愛知縣下名古屋ニ至ル鐵道及岐阜縣下多治見ヨリ分岐シテ岐阜ニ至ル鐵道

一 長野縣下篠ノ井ヨリ松本ヲ經テ鹽尻ニ至ル鐵道

一 山梨縣下甲府ヨリ靜岡縣下岩淵ニ至ル鐵道

一 東京府下辰野ヨリ飯田ヲ經テ愛知縣下新城ニ至ル鐵道

尾越線

一 京都府下舞鶴ヨリ岐阜縣下高山ヲ經テ富山縣下富山ニ至ル鐵道

一 新潟田山形縣下酒田ヲ經テ秋田縣下秋田ニ至ル鐵道及福井縣下新庄ヨリ分岐シテ二國ニ至ル鐵道

羽越線

一 新潟縣下坂町ヨリ山形縣下米澤ニ至ル鐵道

磐越線

一 新潟縣下新津ヨリ福島縣下郡山ヲ經テ平ニ至ル鐵道

輿羽線

一 福島縣下福島ヨリ山形縣下山形秋田縣下秋田青森縣下弘前ヲ經テ青森ニ至ル鐵道及秋田縣下土崎ヨリ分岐シテ船川ニ至ル鐵道

一 宮城縣下石ノ巻ヨリ小午田ヲ經テ山形縣下酒田ニ至ル鐵道

一 秋田縣下横手ヨリ巖手縣下釜石ニ至ル鐵道

一 秋田縣下大館ヨリ巖手縣下好摩ニ至ル鐵道及巖手縣下盛岡ヨリ宮古ニ至ル鐵道

一 青森縣下野邊地ヨリ大湊ニ至ル鐵道

關東線

一 東京府下東京ヨリ千葉縣下木更津ヲ經テ館山ニ至ル鐵道

一 東京府下東京ヨリ勝木縣下勝木福島縣下若松ヲ經テ山形縣下米澤ニ至ル鐵道

一 神奈川縣下神奈川ヨリ東京府下八王子ヲ經テ群馬縣下高崎ニ至ル鐵道

道

近畿線

一 奈良縣下高田ヨリ五條ヲ經テ和歌山縣下和歌山ニ至ル鐵道

一 京都府下京都ヨリ園部ヲ經テ舞鶴ニ至ル鐵道及綾部ヨリ分岐シテ福知山ヲ經テ兵庫縣下豐岡ニ至ル鐵道

一 京都府下園部ヨリ兵庫縣下姫路ニ至ル鐵道

一 京都府下京都ヨリ滋賀縣下大津ヲ經テ福井縣下井ノ口ニ至ル鐵道

中國線

一 廣島縣下三原ヨリ廣島ヲ經テ山口縣下赤間關ニ至ル鐵道及廣島縣下海田市ヨリ分岐シテ吳ニ至ル鐵道

一 兵庫縣下姫路ヨリ鳥取縣下鳥取ニ至ル鐵道

一 京都府下舞鶴ヨリ兵庫縣下豐岡鳥取縣下鳥取島根縣下松江ヲ經テ山口縣下小月ニ至ル鐵道及鳥取縣下米子ヨリ分岐シテ境ニ至ル鐵道

一 山口縣下小郡ヨリ山口ヲ經テ島根縣下津和野ニ至ル鐵道

四國線

一 廣島縣下廣島ヨリ島根縣下濱田ニ至ル鐵道

北陸線

一 德島縣下德島ヨリ高知縣下高知愛媛縣下松山ヲ經テ宇和島ニ至ル鐵道及高知縣下伊能ヨリ分岐シテ須崎ニ至ル鐵道

九州線

一 香川縣下多度津ヨリ愛媛縣下今治ヲ經テ松山ニ至ル鐵道

熊本線

一 熊本縣下八代ヨリ鹿兒島縣下鹿兒島ニ至ル鐵道

一熊本縣下熊本ヨリ大分縣下犬飼ニ至ル鐵道

一福岡縣下門司ヨリ大分縣下大分宮崎縣下宮崎ヲ經テ吉松ニ至ル鐵道

及宮崎縣下富高ヨリ分岐シテ細島ニ至ル鐵道

一福岡縣下飯塚ヨリ原田ニ至ル鐵道

一福岡縣下小倉ヨリ金邊久留米及熊本縣下山鹿ヲ經テ熊本ニ至ル鐵道
以上ノ線路ニ變更増減ヲ要スルモノアルトキハ帝國議會ノ協賛ヲ經テ

之ヲ決定スヘシ

第二條ノ二 鐵道完成ノ必要上既設鐵道ノ改良擴張ヲ要スルトキハ其ノ

施設ヲ爲スヘシ

第二條ノ二ノ次ニ左ノ一章ヲ加フ

第二章 鐵道起工及公債募集

第三條ヲ左ノ如ク改ム

第三條ノ一 鐵道工事ハ總テ繼續事業トシ緩急ニ應シテ線路ヲ區分シ最

必要ノ區間ヨリ其ノ實測敷設ニ著手ス

第三條ノ二 政府ハ每區間ノ工費豫算ヲ定メ帝國議會ノ協賛ヲ求ムヘシ

第三條ノ三 鐵道工事ハ明治二十六年度ヨリ向フ二十四箇年ヲ以テ成功

期限トス

第四條ヲ第四條ノ一トシ次ニ左ノ一條ヲ加フ

第四條ノ二 政府ハ一箇年二千萬圓ヨリ少カラサル鐵道公債ヲ募集スヘ

第二章及第七條乃至第十條削除

第十四條ニ左ノ一項ヲ加フ

政府ニ於テ必要ト認ムルトキハ帝國議會ノ協賛ヲ經テ工事中其ノ建設費

ニ對シ一箇年五朱以下ノ割合ヲ以テ算出シタル哩補助ヲ爲スコトヲ得

第十五條第二號中「第十條」ヲ「第三條ノ二」ニ改ム

（恵松隆慶君演壇ニ登ル）

○恵松隆慶君（百四十三番） 本案ハ重野君ガ其理由ヲ述ベル積デゴザイマ

シタガ、唯今選舉法ノ委員會ヲ開カレテ居リマス故ニ、私ガ代辯ヲスルヤウ

ナコトニナリマシテ、茲ニ登壇致シマシタ、此鐵道敷設法中改正法律案ヲ提

出致シタノハ國ガ發達國防完備セザルト云フ上ニ於キマシテモ、鐵道ノ速成

ト云フコトハ一般望ンテ居ルコトデゴザイマス、我邦ヲ進メ國產ヲ蕃殖セ

シムルト云フニ附イテハ、最モ鐵道ノ速成ヲシナケレバナラヌコトデア

リマス、故ニ此改正案ヲ提出致シタノデゴザイマス、此改正案ノ中デ重ナ

ルモノ、一二ヲ述べマスレバ、現行法ノ第一條ニ於キマシテ、從來ノ一期

線或ハ二期線ノ其他一期二期ニ漏れテ居リマスルヤウナ線路デモ、總テ
必要ノ線路ト云フモノハ漏ラサズ大體之ヲ第二條ニ掲ゲタモノデゴザイ

マス、サウ致シマシテ第三條ノ所ヘ鐵道起工及公債募集ノ一章ヲ加ヘマ
シタ、第三條ヲ改メマシタ所ハ「鐵道工事ハ總テ繼續事業トシ緩急ニ應シテ
線路ヲ區分シ最必要ノ區間ヨリ其實測及敷設ニ著手ス」斯ウ改メルノデゴザ
イマス、第三條ノ第一ノコトハ極簡略ナコトデゴザイマスカラ述べマゼヌ、第

三條ノ第三ヲ修正ヲ致シマシタノハ、鐵道工事ハ明治二十六年度ヨリ向フ二

十四箇年間ヲ以テ成功期限トスル、是ハ現行法ヨリ期間ヲ長クシタノデゴザ

イマス、此必要ノ澤山ナ線路ノ成功ヲ告ゲルト云フニハ、現行法ノ十二箇年杯

デハ逆モヤリ切レマセヌカラ、此年期ヲ延長シテ二十四箇年間ニ是ダケノ目

的ヲ達シタイト云フノガ改正ノ主ナル所デアル、而シテ第四條ノ第二ニ修正

ヲ致シマスハ「政府ハ一箇年二千萬圓ヨリ少カラサル鐵道公債ヲ募集スヘシ」

是ハ隨分財政上ニ大關係ヲ來ス問題デアリマスルガ、ソレハ速成ヲ圖ルニハ

相當ナ公債ヲ募集ノ途ヲ講ゼネバナラヌガ、此事ニ附イテハ今政府委員モ既

ニ大藏省ノ次官モ出テ居ラレマスルガ、是ハマア委員會ニ此法案ハ託シマシ

テ十分當局者ト交渉ヲ致ス積デゴザイマスデ、此募集ノ金額ノ話トカ色々ナ

コトハ致サナイトモ、詰リ委員會テ十分ナ調査ヲ致シタインデゴザイマスデ

此公債ヲ募集スルトスレバ、是ダケノ途ヲドウシテモ明ケテ置カナケレバナ

ラヌト云フノデ、茲ニ是ダケノ金額ヲ掲ゲタノデゴザイマス、然シテ第十四

條ノ一項ヲ改ムルノハ「政府ニ於テ必要ト認ムルトキハ帝國議會ノ協賛ヲ經

テ工事中其ノ建設費ニ對シテ一箇年五朱以下ノ割合ヲ以テ算出シタル哩補助

ヲ爲スコトヲ得」斯ウ云フ箇條ヲ入レタノデゴザイマス、マダ餘程ノ修正ノ箇

條ガゴザイマス、詰リ此法案ハ諸君何レモ皆熱心ナ法案デアラウト思ヒマス

ル又は等ノコトハ十分又調査セネバナラヌモノデアリマスル故ニ、十八名ノ

委員ヲ選シテサウシテ此案ハ精密ニ調査ヲセシメテ、而シテ滿場一致ヲ以テ

一ノ成立アランコトヲ望ミマス、ドウカ速ニ委員付託ニナランコトヲ望ミマ

ス

（堀家虎造君二百六十二番） 質問ガアリマス——恵松君ニチヨウト質問致

シマス、此法案ニ對スル政府委員ハドウ云フ意見デアルカト云フコトヲ第一

當局者ノ意見ヲ承リタイ、第二ハ提出者ガ第四條ノ外債ヲ募ルニハ、内債デ

アルカ外債デアルカ知リマセヌガ、二千万圓ノ公債ヲ年々募ルコトニナツテ

居ル、ソレハ果シテ經濟上募集シ得ラレルト云フ御見込デアルカドウカ、若

シ得ラレナンダトキハ總テ此法案ハ運轉ガ出來ナイコトニナルカラ其御見込

ヲ承リタイ、ソレト線路ガ總テ落成スルマデニハ、總工費ガ何億万圓ノ金ガ

掛カルカト云フコトヲ、御計算ガ出來テ居ルナラバ承リタイ

○恵松隆慶君（百四十三番） 是ハ二十四年ノ間デゴザイマスカラ、今日ノ財

政ヲ見テ之ヲ斷定スペキモノデハノイ、其中ニ今日ヨリ經濟ガ少シ廣ガツテ

來マスレバ、自然必要ナモノハ私設ト云フヤウナコトモ起ルカモ知レマセヌ、其ヤウナコトハ總テ委員會ニ於テ十分當局者ト交渉ヲシテ、之ヲ調査セシメテ完全ナ途ヲ求メルト云フノデゴザイマス

○堀家虎造君(二百六十二番) 總テノ工費モ……

○恵松隆慶君(百四十三番) ソレハ委員付託デ宜イヂヤナイカ、今此處デソシナコトヲ聽カンデモ……

(笑聲起リ「無用々々」ト呼フ者アリ)

(政府委員大藏次官法學博士男爵田尻稻次郎君演壇ニ登ル)

○政府委員(男爵田尻稻次郎君) 唯今提出ニナリマシタル鐵道敷設法中ノ改正デアリマスルガ、是ハ御提出者ノ恵松君カラモ既ニ仰セラレタ通ニ、此第四條ニ加ヘラレル修正ノ如キハ大ニ考モノデアルデス、勿論詳シイコトハ委員會ニ出テ詳シク申上ゲマセウガ、鐵道敷設ノ完成ヲ求メ此速成ヲ求メルト云フコトハ、是ハモウ政府モ諸君ト共ニ希望スル所デ、是ニ附イテハ決シテ躊躇スル所モ何モナイノデスケレドモ、御承知ノ通ニ世ノ中ハ一筋繩テ往ケヌコトガアルノデ、餘程是ハ恵松君モ御苦心ニナツタ所デ、此點ヲ殊更ニ仰セラレタガ、私等ニ於テモ矢張此點ハ苦心ヲシテ居ル、殊ニ又此財政ト云フハ御承知ノ通ニ缺損ノ餘地ヲ存シテ置キマセヌト、財政上缺損ノナイコトハ非常ニ忌ムベキコトデアルト云フコトハ、是レ亦賢明ナル諸君モ御承知ノコトデアル、故ニ公債募集杯ト申シマスルノハ申スマデモナク、市場ノ緩急ニ應ジ事ノ緩急ニ應ジテヤツテ往キマセヌト、餘程不利益ナ募集方ヲ致サナクンバナラヌコトガアルノデス、此不利益ト云フコトモ一年ヤ二年ノ不利益ナラ宣シウゴザイマスガ、公債ト云フモノハ御承知ノ通ニ後世ニ餘程負擔ヲ遺スモノデアリマスカラ、其時ノ當事者ノ注意ガ足ラスト後世ニ非常ナ批難ヲ遺シマスカラ、餘程是ハ考ヘナクンバナラヌ譯デアリマス、ソレデ鐵道ノ速成ヲ望ムト同時ニ、又後世ニ於テ財政ノ裕ナルト云フコトヲバ希ヒマスルシ、非常ニ缺損ヲサシテ事ノ宣シキヲ制シテ往クト云フ處置ヲ、ドウシテモ財政ニ存シテ置カナケレバナラヌ、是レ亦喋々ノ辯ヲ要サヌ譯デアリマスルガ故ニ、此二千萬ヨリ少カラザルト云フモノヲ年々募集スルニ、如何ナル事柄ガアツテモ募ラネバナラヌト云フコトニ法律上ノ義務ヲ持ツト云フコトハ、政府ハ是ハ断ジテ御斷ヲ致サナケレバナラヌカルガ故ニ……モウ是ダケ申上ゲマスルト御承知ノコトデアリマスルカラ、是カラ先キハ委員會ニ於テ篤ト評議ヲ致シ、サウンテ、適當ナ所デ此案ヲ處分シヤウト云フコトヲ希望致シマス、ドウゾ諸君モツコラ邊ヲ十分ニドウカ御注意ヲ希ヒタイノデアリマスル

○議長(片岡健吉君) 今提出者カラ本案ヲ委員ニ付託シテ、審査シテ貰ヒタシト云フコトヲ云レマシタガ、委員付託ニ御異議ハアリマセヌカ

○議長(片岡健吉君) 御異議ガナケレバ其通致シマス、次ハ議事日程ノ第十八名ノ特別委員ヲ議長ガ指名致シマシテ御異議ハアリマセヌカ

(「異議ナシ異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○議長(片岡健吉君) 御異議ガナケレバ其通致シマス、次ハ議事日程ノ第十二治水ニ關スル建議案(佐々木正藏君外)(委員長報告)

(板東勸五郎君演壇ニ登ル)

○板東勸五郎君(九十七番) 治水ニ關スル建議案ノ委員會ノ調査ノ顛末ヲ報告致シマス、本案ニ對シマシテ治水ノ計畫ガ國ノタメニ必要デアルト云フ趣旨ハ、既ニ提出者ヨリ詳細ノ說明ヲサレテ居リマス通デアリマス、且ツ此文案ニモ明ニ盡シテアリマスルガ故ニ、別ニ御報告致スノ必要ハナイト認メテ居リマス、委員會ニ於キマシテハ此議案ハ建議案デハアリマスルガ、参考ノタメニ特ニ内務大藏兩省ノ政府委員ノ出席ヲ求メマシテ、政府ガ今後治水ニ關スル所ノ方針ハ如何デアルカ、河川改築ノ計畫ハドウデアルカト云フコト、茲ニ財政上ノ都合等モ種々質問ヲ致シマシタコトデアリマス、然ルニ兩省ノ政府委員ニ於キマシテモ、治水ハ經國ノ要務デアツテ一日モ忽ニスベカラザルコトハ、殆ド此議院へ提出致シマシタ人ト同ナ意向デアリマシテ、少モ違ヒハナイノデアリマス、然ルニモ拘ラズ内務省ガ調查上ノ事實ハソレダケ運ンデ居ラナイ、隨ツテ未來ノ計畫モソレダケ立ツテ居リマセヌノデアリマス、又大藏省ノ政府委員ノ説明ニ於キマシテモ、唯數字ノ上ニ於キマシテ財源ガナイ、隨ツテ此建議案ニ求メテアリマスガ如キ多額ノ金額ヲ、將來年々ダケ運ンデ居ラナイ、隨ツテ未來ノ計畫モソレダケ立ツテ居リマセヌノデアリマス、又大藏省ノ政府委員ノ説明ニ於キマシテモ、唯數字ノ上ニ於キマシテ定額トシテ國家ノ財政ニ引除ケルト云フコトハ、甚ダ至難ナコトデアルト云フ説明ノミニ止リマシテ、詰リ政府トシテノ治水策ハ今尙水漫然タルモノニアリマス、デ唯年々歲々豫算ヨリ生ジタ所ノ剩餘金ヲ以テ、時々ニ其手段ヲ講ズルト云フガ如キ姑息ノ方針ヲ採リツ、アルト、斷定致シマスルノ外ナイ次第ゴザイマス、已ニ現在ニ於キマシテノ國費ヲ以テ補助致シテ、改修ヲ爲シツ、アリマスル所ノ九大川ニ對シマシテハ、三十年並ニ三十一年度ニハ四百万圓以上六百万圓以上國費ノ支出ヲ致シテ居リマス、然ルニ其後年度ニ至リマシテハ百數十万圓ニ減シ、尙ホ此九大川ヲ完結スルト云フ三十八年度ヨリ遡リマシテ四五年ノ間ハ、百万圓以下ノ國費ヲ支出スルト云フ所ノ設計計畫ニナツテ居ルノデアリマス、僅ニ斯ノ如キ少額ノ金額ヲ以チマシテ、治水ノ業務ヲ完クシ頻年變ル所ノ災害ヲ根本的ニ防禦致シマシテ、所謂百年ノ計計畫ニナツテ居ルノデアリマス、僅ニ斯ノ如キ少額ノ金額ヲ以チマシテ、治水ノ業務ヲ完クシ頻年變ル所ノ災害ヲ根本的ニ防禦致シマシテ、所謂百年ノ計計

ナ次第デアリマス、故ヲ以テ委員會ニ於キマシテハ、此場合ニ於テ治水ノ計

畫ノ希望ヲ大ニシマシテ、毎歲若干ノ治水費ニ要スル定額ヲ定メマシテ、

其國庫ノ補助金ヲ増加スルト云フコトハ、誠ニ國家急要ナコト云フ意ヲ

以テ、全會一致ヲ以テ、當院ニ於キマシテハ、可決致スペキモノト決議致シ

マシタノデアリマス、尤モ後年度ニ於キマスル所ノ財源ノ如キハ、其歲入ノ

增加モアリマセウシ、各種事業ノ伸縮モアリマセウシ、總テノ豫算ヲ調製スル

上ニ於キマシテ是ダケノ金額ヲ定額トシテ別ニ除キ置クコトハ決シテ至難ノ

コトデハナイト、委員會ニ於キマシテハ調査ヲ遂ゲマシタ次第デアリマス、

此原案ノ中ヨリ神通川改修工事費ノ追加豫算案ヲ此議會ニ發案セラレタイト

云フ、文章ノ中ノ神通川ノ一川ヲ除クコトニ相成シテ居リマス、是ハ此神通

川ナルモノガ利害ノ上ニ於キマシテ、不必要デアルト云フ意味デ除イタノデ

ハナクシテ、唯此追加豫算トシテ求メル上ニ於キマシテ庄川ノ追加豫算ヲ求

メ、併テ富山縣ニ於テ神通川ノ追加豫算ヲ求ムルト云フコトハ、地方經濟ノ

上ニ於キマシテモ又他ノ權衡上ニ於テモ頗ル其當ヲ缺イタモノデアラウト云

フダケノコトデ、決シテ之ヲ以テ不必要トシテ除イタ譯デナイ、前條ノ意味デ

是ヲ除キマシタ次第デアリマス、委員會ノ經過ハ前條ノ通デアリマスレバ、

何卒諸君ニ於テ審議アランコトヲ希望致シマス、且ツ是ト同一ノ委員ニ御

付託ニ相成シテ居リマシタ土木費災害補助費ノ方ハマダ調査ノ了ヘマセヌ

廉ガアリマスガタメニ、不日調査ノ以上本院ニ報告スルコトニ致シマスル譯

デゴザイマス、且ツ此治水ニ關スル建議案ハ目下重要ノ議案デアリマスレバ、

何卒讀會省略ヲ以テ本案ヲ通過セントヲ希望致シマス

○恆松隆慶君(百四十二番) 是ハ建議案ゴザイマスデ、讀會省略ニ及ビマ

セヌ私ハ贊成デアリマス、ドウカ直ニ決セラレンコトヲ望ミマス

○議長(片岡健吉君) 本案ハ委員長ノ報告ノ通異議アリマセヌカ

(「異議ナシ」ト呼フ者多シ)

○議長(片岡健吉君) 御異議ガナケレバ委員長ノ報告ノ通決シマス、次ハ議

事日程第十三巴里萬國博覽會協賛費增加ノ建議案、議案ノ朗讀ヲ省略致シマ

ス、早川龍介君

第十三 巴里萬國博覽會協賛費增加ノ建議案(恒松

巴里萬國博覽會協賛費增加ノ建議案

巴里萬國博覽會ハ我國商工業者ノ知識增進發達上ニ大關係アルヲ以テ更
ニ金五萬圓内外ノ費用ヲ補助シ彼地ニ於テ我國渡航者ノ便ニ供スルノ設備ヲ爲サシメムコトヲ望ム

右建議ス

(早川龍介君演壇三登ル)

○早川龍介君(二百八十四番) 是ハ簡短ニ私カラ建議案ノ趣意ヲ御報告致シ

マス、諸君モ御承知ノ如ク、佛國デ本年開カレマスル世界萬國博覽會ハ、殆

ド此二十世紀ノ始リニ於キマシテ、世界ノ總テ工業其他一般ノ物品ヲ一場

ニ陳列フ致シマシテ、サウシテ之ヲ世界ノ人ニ示スト申シマスル、誠ニ大切

ナル必要ナル且ツ花ミシキノ博覽會アルコトハ、是ハ能ク御承知ノコト

デゴザイマス、此事ハ過ル二十八年ニ於テ此議場デ、三十三年ノ博覽會ノコト

ヲ皆杞憂セラレテ實ニ其當時ノ有様ハ、殆ド此三十三年ハ日本ノ戰後ノ日本

トシテ始テ此萬國ノ上ニ日本が顯レ出シテ、工業其他商業總テノ物品ヲ各國

ニ示スト云アコトデアラシテ、誠ニ此非常ナル二十七八年戦役デ世界ノ上ニ多分

ナル名譽ヲ日本ガ博シタ、其日本ガ奮ニ兵事トカ申スヤウナ戰爭上ニ唯強イ

國ト云フノミナラズ、一面ニハ商工ノ上ニ於テモ斯ノ如キ力ヲ有テ居ルト

云フコトヲ世界ニ向シテ紹介スル誠ニ好機會ノ時機デアルカラシテ、此戰役ノ

經營中最モ重キモノニ置イテヤルト云フコトデ、即チ此贊同費ハ當初ハ三百

万圓位ノ金額ヲ以テ致サウト云フ説ガ甚ダ多カツタノデ、又此博覽會ハ非常

ナ力ヲ入レテ御贊同下サシタ譯デアラシテ、然ルニ御承知ノ通ニ此戰後經營ノ

上ニ付イテ日本ノ財政ノ不十分ナル所カラシテ、最初ノ考ガ段々減削セラ

レマシテ漸ク御承知ノ通、百万圓ニモ足ラナイ所ノ贊同費ニナシタノデ、故

ニ其最初ノ計畫ノ三分一ノ經費ニナリマシタカラ、實ニ此博覽會ハ所謂世界

ノ上ニ出テ稍々日本ガ耻ヲ搔キハセヌカト云フ懸念ガアリマシタ、所ガ今ノ

總裁即チ農商務大臣ガヒドク心配ヲセラレ、又今ノ此博覽會ノ事務官長ハ古

ク巴里ニ居リマスル人デ、餘程事情モ通曉シテ居リマス、總裁事務官長等

ノ心配ニ依リマシテ承リマス所ニ據レバ、稍々其設備モ完全致シテ殆ド此戰

後ノ日本トシテ此巴里デ博覽會ヲ致ス上ニ於テハ、餘リ耻辱ヲ先ツ受ケヌデ

アラウト申スヤウナ設備ハ粗々出來マシタヤウニ承ツテ居ル、然ルニ此博覽

會ノ上ニ於キマシテ總テ出品ヲ致ストカ或ハ品物ヲ出ストカ申スコトガ、一

面ニ於テ非常ニ國ヲ進メル一つノ利益デハアリマスルガ、是マテ二十二年ノ

巴里ノ博覽會、又二十六年ノ亞米利加ノ博覽會等ノ實況ヲ見マシテモ、兔角

此内地ノ人ガ外國ニ參リマシテ此博覽會ノ實況ヲ見ルト申シマスルコトハ、

非常ナ此進歩ノ上ニ多分ノ力ヲ持ツモノデゴザイマス、ソコデ前述シマシタ

通リニ粗々此陳列出品等ニ於キマシテハ、殆ド先ヅ金ノ割合ニハ非常

ナ設備ガ出來テ、先ヅ日本ノ不名譽ハ售ラヌデアラウト云フ想像ハ附キマ

シタガ、此博覽會ニ向セマシテハ、曾テ私共ガ博覽會ノコトニ附キマシテ各縣

ヲ巡回致シマシタ時分ニモ、此度ハ成ルベク多數ナ人ヲ外國ニ遣シテ、サウ

歩ノ上ニ於テハ非常ナル力ヲ得ルモノデアルト云フコトヲ往々ニ詰ラシテ、

諸府縣カラモ大分此博覽會ノ實況ヲ視察ニ參ルト云フ人モ澤山アルヤウデゴザイマス、然ルニ御承知ノ通未ダ日本テハ隨分此歐羅凹マテ參ッテ、博覽會ヲ見物スルト申ス上ニ於テハ隨分澤山ノ金ヲ要スルコトデゴザイマス、且ウ又是マデノヤウニ私共ノ考ニハ、外國ニ始終居リマシテ或ハ佛蘭西語ナリ英吉利語ナリニ十分通シマシタ人ガ、又再ビ此博覽會ヲ參ッテ見ルト申スヨリハ、

寧ロ十分ニ自分ノ資産ヲ經營シテ居リマスル年ヲ食ヒマシタ人ガ、此博覽會ニ行クテ見ルコトガ非常ニ今日ノ上ニ於テ急務アラウト考ヘル、又一般ノ

實業團體モ實業家ノ中カラト云フコトヲ、是マデ屢々言クテ居リマスガ、矢張リ是モ少シ進ミマシテ却テ或ハ帝國ノ兩院ノ議員トカ、或ハ府縣會ノ議員トカ申シマスルヤウナ稍政治上ノ權能ヲ十分ニ得テ居ル人モ、成ルベク多數ニ行クテ貲ロマセヌケレバ、自分等ノ目的ノ實業ノ進歩モ甚ダ十分

ナ經營ヲ爲スコトガ出來ヌト云フヤウナ觀念ヲ以チマシテ、成ルベク多數ニ行クテ見ルト云フコトガ、矢張リ是モ少シ進ミマシテ却テ或ハ帝國ノ兩院ノ議員トカ申シマスルヤウナ稍政治上ノ權能ヲ十分ニ得テ居ル人モ、成ルベク多數ニ行クテ貯ロマセヌケレバ、自分等ノ目的ノ實業ノ進歩モ甚ダ十分

ナ經營ヲ爲スコトガ出來ヌト云フヤウナ觀念ヲ以チマシテ、成ルベク多數ニ行クテ見ルト云フコトガ、矢張リ是モ少シ進ミマシテ却テ或ハ帝國ノ兩院ノ議員トカ申シマスルヤウナ稍政治上ノ權能ヲ十分ニ得テ居ル人モ、成ルベク多數ニ行クテ見ルト云フコトガ

大層必要ナコトヲ感ジテ居ル、サウ云フ風ニナリマスルト云フト言葉ノ上カラ、或ハ外國ノ滯在等ニ於キマシテモ隨分不都合ナコトガ澤山アラウト云フコトデ、其不都合ノクメニ折角行キタイト云フ人モ行カレヌヤウニナリマスカラ、モウ稍々博覽會ノ設備ハ十分ニ出來マシタガ、此上尙ホ人ヲ勧メマシテ外國ノ實況ヲ見セニ遣ルト申シマスル上ニ附イテ、此建議案ノ費用ヲ要スル譯デゴザリマス、デ實ハ餘り面倒ナ案デモゴザリマセヌデ、即決ニ願ヒタイト考ヘテ居リマスガ、豫算ニモ關係ガゴザイマスルデ、相成ルベクハ委員付託ニテモナリマスレバ、其時ニ尙ホ十分ナ自分ノ考ダケモ申上ゲルシ、又當局者ノ意見モ承ルト云フヤウニ致シマセウト考ヘマス此所デハ餘り若シモ御反對デモゴザイマスレバ、尙ホ詳シク申上ゲタイト存ジマスガ、ソレデゴザイマセヌケレバ、委員付託ニドウゾ……

○恆松隆慶君(百四十二番) 是ハ即決ヲ希望スルガ一應念ノタメニ委員ニ付託セラレンコトヲ希望致シマス、議長指名ノ九名ノ委員ニ付託セラル、コトニ……。

(「賛成々々」ト呼フ者アリ)

○議長(片岡健吉君) 今恒松隆慶君カラ委員付託ノ動議が出マシタガ、九名ノ特別委員ニ付託スルニ異議ハゴザイマセヌカ

(「異議ナシ異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○議長(片岡健吉君) 御異議ガナケレバ其通致シマス、議事日程第十四四國高等學校設置建議案、議案ノ朗讀ヲ省略致シマス、林喬君

第十四 四國高等學校設置建議案(林喬外十五名提出)

四國高等學校設置建議案

人材育成ノ道ハ國運ノ進長ニ伴ヒ著々之ヲ擴大ニセサルヘカラス今ヤ國家ハ戰後ノ經營ヲ完備センムルニ急ナリ而シテ育英ノ道モ此ノ膨脹ト進運トニ適應シテ其ノ施設ヲ完整セサルヘカラス曩ニ政府中等教育ノ振作ヲ計リ明治二十四年ヲ以テ中學校令ヲ改正シ一府縣ノ下ニ數校ヲ分設スルコトヲ得セシメテヨリ二十七八年ノ戰捷ニ至リテ機運益々張リ校數頓ニ加リ今ヤ其ノ效果ヲ收メツツアリ中等教育ノ機關如此膨脹シタルニ拘ラス高等教育ノ機關ニ至リテハ國家ノ進運ニ伴ヘル新規ノ施設アルヲ視ス是實ニ國家教育上ノ闕典ナリトス

現在施設セル高等教育ノ區管ハ東西二京大學アリ而シテ六箇高等學校ハ東京、仙臺、京都、金澤、熊本、山口ニ在リ東山、東海、北陸、畿内、山陽、鎮西ハ各其ノ歸集スル所アリト雖獨リ四國ハ此ノ設ケナシ然リ而シテ四國ノ地タル土地廣袤四縣ニ涉リ人口實ニ三百萬餘ヲ有ス然ルニ一ノ高等學校ノ設ケナキハ學區分管ノ均衡ヲ失シ教政擴充ノ適當ヲ得タルモノト云フヲ得ス今ヤ四國ハ盛ニ尋常中學ノ設備ヲ完全ナラシメ卒業生ノ如キ年々歲々增加スト雖此ノ多數ノ學生ハ該地ニ在リテ高等ノ教育ヲ受クルコト能ハス徒ニ東西ニ彷徨シ南北ニ流離セサルヲ得ス其ノ時日ト貲材トヲ浪費スル爲ニ多數有爲ノ學生ヲシテ空ク半途ニ方向ヲ轉シ志ヲ屈シ恨ヲ呑ミ草野ノ間ニ沈滯セシムルニ至ルハ獨リ四國學生ノ不幸ノミニ非ス恂ニ地方自治ノ道ニ悖リ而カモ育英成材ノ道ヲ失ヘリ是豈邦家ノ慶事ナラムヤ茲ニ於テ政府ハ速ニ四國ノ内ニ位置適當ノ地ヲ擇ヒ新ニ一ノ高等學校ヲ設置セラレムコトヲ望ム

右建議ス

(林喬君演壇ニ登ル)

○林喬君(二百九番) 本員モ本案提出者ノ一人デゴザイマスルデ、登壇ヲ致シマシタノデアリマスガ、而シテ本員ハ此場合改テ提出ノ理由ヲ申シマスル必要ガ或ハナイカモ如レヌト存ジマスガ、豫テ滿場諸君モ御承知ノ通、此本案ハ第十二議會ノ場合カラ大多數ノ御贊成ヲ得マシテ本院ニ現レ來クテアリラウト存ジマスルガ、或ハ此事ハ省議ヲ經テ閣議マデニ上ボフテアフタト云君モナクシテ、而モ即決マデニナリマシタ案デゴザイマス、サウシテ尙ホ當局者即チ政府ニ在シテモ、豫テ諸君モ新聞紙上アタリデモ御承知ノコトデアラウト存ジマスルガ、殊ニ第十三議會ニハ滿場一致デ一人ノ反對サレル諸君モナクシテ、而モ即決マデニナリマシタ案デゴザイマス、サウシテ尙ホ當ルニ此豫算案ヲ繙イテ見マシテ始テ豫算案中ニナイト云フコトヲ見出シマシテ、實ニ本員アタリハ甚ダ失望ヲ極メマシタノデゴザイマス、殊ニ昨年ノ夏

季ノ交ニ際シマシテ、樺山文部大臣、岡田參與官等ハ學事觀察トシマシテ、
 四國四縣ノ實地ヲ歴訪セラレテ特ニ此位置アタリト云フコトモ或ハ御成案ガ
 アルコトデアツテ、之ヲ定メル上ニモサウ御困難ノ事情ハナイモノデアルト本
 員モ信ズルノデゴザリマス、又經費ノ上カラ言ヒマシテモ、甚ダサウ多數ノ經
 費デモゴザイマセヌデ、全ク三四万圓五万圓以内テ以テ此設備ハ十分ニ出來
 ル次第デアツテ、敷地其他ノ經費等モ四國四縣ノ中ハ、何レトモ申出ニナッテ
 居ルト云フコトヲ聞イテ居リマスル次第デゴザイマスカラ、此場合ニハ仰ギ
 頼クハ前ノ十三議會ノ例ノ通、此場合直チニ即決アランコトヲ特ニ希望致シ
 マスノデゴザイマス

〔贊成々々ト呼フ者アリ〕

○議長(片岡健吉君) 是ハ委員付託說モゴザリマセヌガ、本案ニ就イテハ御
 異議ハアリマセヌカ

○議長(片岡健吉君) 御異議ガナケレバ原案ノ通ニ決シマス——是ヨリ報告
 ヲ致シマス

〔書記朗讀〕

政府ヨリ提出セラレタル議案左ノ如シ

明治二十二年度各特別會計歳入歳出豫算追加案(特第一號)

明治三十二年度歲入歲出總豫算追加案(第三號)

電信法案

明治三十一年度豫備金支出ノ件

明治三十一年度豫備金外ニ於テ豫算超過及豫算外支出ノ件

明治三十一年度特別會計豫備金支出ノ件

明治三十一年度特別會計豫備金外ニ於テ豫算外支出ノ件

郵便爲替法案

貿易規則中改正法律案

議員ヨリ提出セラレタル議案左ノ如シ

山陰高等農林學校設置建議案

提出者 恒松 隆慶君 松本 正友君 西谷 金藏君

江角千代次郎君 門脇 重雄君 西村 淳藏君

野尻 岩次郎君 並河 理二郎君 布施 基七君

特別委員長及理事左ノ通常選セラレタリ

府縣郡市町村其ノ他ノ公共團體ノ所有地免租ニ關スル法律案

委員長 中村 榮助君 理事 布施 基七君

飲食物其ノ他ノ物品取締ニ關スル法律案

委員長 岡田 龍松君 理事 杉下太郎右衛門君

特別委員左ノ通り指定セリ

間接國稅犯則者處分法改正法律案

重要輸出品同業組合法中改正法律案	熊代 勝三郎君	小倉 信近君	松本 正友君
内田 雄藏君	佐久間國三郎君	山田 喜之助君	永井 嘉六郎君
大津淳一郎君	阿部孫左衛門君	佐治 幸平君	堀尾 茂助君
辯護士法中改正法律案	北田 豊三郎君	利光鶴松君	大津 通君
鐵道敷設法中改正法律案	初見八郎君	北田 豊三郎君	須藤 善一郎君
鐵道敷設法中改正法律案	山内吉郎兵衛君	磯田 和藏君	小松 乾一郎君
巴里萬國博覽會協賛費增加ノ建議案	麻生太吉君	望月 圭介君	高橋 九郎君
三田村甚三郎君	杉田定一君	大塚 成吉君	木村 格之輔君
巴里萬國博覽會協賛費增加ノ建議案	石黒涵一郎君	磯田 和藏君	佐藤 順一郎君
早川 龍介君	横山 通英君	安藤 龜太郎君	鈴木 文三郎君
林彦一君	恵松 隆慶君	鞍谷 清慎君	中田 瑞平君
元藏君	秋山 元藏君	和波 久十郎君	堀越 寛介君
廣住久道君	内山 松世君	重野 謙次郎君	鹽路彥右衛門君
野尻 岩次郎君	板東 勘五郎君	西谷 金藏君	大矢四郎兵衛君
和波 久十郎君	横山 通英君	井上 源衛君	
磯部 八五郎君	新開 貢君	野間 五造君	
松尾 己代治君			
大塚 常次郎君			
磯部 八五郎君			
大塚 常次郎君			
磯部 八五郎君			
大塚 常次郎君			
磯部 八五郎君			
大塚 常次郎君			

衆議院議事速記録第九號正誤

頁段行

正誤

○議長(片岡健吉君) 明日明後日ハ議案ノ都合ニ依ツテ休會ニ致シマス、十
 八日ノ議事日程ハ追テ、公報ヲ以テ御通知致シマス——本日ハ是ニテ散會致
 シマス

〔書記朗讀ノ次ニ左ノ數項ヲ加フ
 議員ヨリ提出セラレタル議案左ノ如シ
 巴里萬國博覽會協賛費增加ノ建議案提出者恒松隆慶君外十八名
 四國高等學校設置ノ建議案提出者林衛君外十五名〕

一七 下 一四 書記朗讀ノ次ニ左ノ數項ヲ加フ

誤

正誤

誤

正誤

誤

正誤

誤

正誤

誤

正誤

誤

正誤

明治三十三年一月十五日